

2021 March

東京都市大学 校友会
TOKYO CITY UNIVERSITY

都市

vol.08



校友会のリモート対応

東京都市大学 校友会 会長 原 口 兼 正 (1974 通信)

2020年度が始まる少し前の2月から新型コロナウイルスの感染が問題となり、校友会の活動は制限されました。3月からは集合しての会議、行事等を本部、支部ともにすべて中止してメール審議にしました。当初はコロナの収束が2〜3ヶ月かと期待していましたが、それも叶わず大学は、前期、リモート授業で学生は構内立入禁止となり我々もコロナ対応の長期化を覚悟しました。そこで5月の校友会総会に向けて大学のリモート授業で採用しているZoomのシステムを利用する準備をICT部会を中心に進め、総会の資料説明会として昨年度の報告と本年度の説明をリモートで行いました。

その後、リモート会議方式で各委員会、常任幹事会、地域ブロック長会議等を行い、ブロック毎の支部長会議にまで発展しました。この方式で講演会、学生の「進路相談会」、「ホームカミングデー・オンライン2020」にも対応しました。

校友会では、以前から若手・現役世代の方々に校友会活動に参加し易くする為、夕方開催の委員会等に出席できない方もリモートで参加できるようにしようとの声は上がっていましたが、なかなか一歩を踏み出せずにいました。それが、今回のコロナ禍対応でリモート会議を行ってみたところ、最初にICT部会の行ったZoomの準備やお試し会のおかげで参加の皆さんは手軽に参加できる事を実感し、久しぶりの顔合わせに笑顔が見えました。

コロナ禍は多くの企業等でも働き方改革のキッカケになったと言われていますが、校友会でもコロナ収束の後は、会合への実参加とリモート参加のハイブリッド方式が定着すれば、様々な立場の会員が参加できる体制に進歩できます。

都市大は、コロナ禍の前年秋に台風による浸水の大きな被害を

受けましたが、復旧支援の義援金を呼びかけた所、多くの会員の皆様から協力を頂きお礼申し上げます。写真は寄付に対する五島育英会から校友会への感謝状です。

尚、私の会長任期は2020年度で終了します。副会長から6年間本当にお世話になりました。お礼申し上げます。



未曾有のこの時期に

東京都市大学 校友会 副会長 吉 村 正 伸 (2001 環境情報)

この巻頭言を執筆しているのが2020年12月初旬ということで激動ともいえる今年は、もうすぐ終わりを迎えようとしています。今年ほど「未だだかつてない」という言葉がこれほどまでに似合う年はないのでしょう。それは年初に始まった新型コロナウイルスの蔓延の影響に他なりません。外出は制限され、旅行はおろか毎日の通勤や通学すらその制限の対象になっています。外食やスポーツ観戦などの人との実際の場所での交流もままなりません。国を挙げての事業である東京オリンピックも延期となりました。誰しもが想像していなかった状況です。

その中で我々はその変化にどう対応していくのかが試された1年でありました。感染から身を守りながらも社会活動、経済活動とどうバランスをとっていくかは、様々な情報が交錯する中で一つの正解があるのではなく、個人それぞれの価値観や見識が問われてきました。これまで何となく社会の雰囲気の中で当たり前にあった

ことも自分にとっての価値を改めて考え直し、判断を行っていくことが必要とされていると思います。

そして自分にとってよりよい判断を行っていくためには、飛び交う様々な視点からの情報を分析し検証し、自らの行動の指針としていくという、まさに我々が学生時代に身に着けたであろうアカデミックなアプローチが重要になっていくと思います。これは知性とも言い換えることができるでしょう。

能動的に情報を集める、歴史に学んでみる、これまで培った知性により磨きをかけて、この舵取りの難しい時代の中でも皆様には充実した日々をお過ごしただけだったらと思います。そして、かつて共に知性を磨いた仲間たちとの語らいもまた、1つのアプローチなのではないかと思っています。



都市大の現状

東京都市大学 学長
東京都市大学 校友会 顧問
三木 千壽



はじめに校友会の皆様には、2019年10月12日の台風19号水害復旧に対する支援およびコロナ禍対応としての遠隔授業支援と連続して多大なご支援をいただきました。この場をかりて心よりお礼申し上げます。

台風19号による水害は驚きでした。都市大世田谷キャンパスの歴史をたどってみますと、旧1号館前付近で数センチ程度の小規模な水害はありましたが、今回のようなことは初めてとなります。そのため、これまでは水害への備えをあまり意識していませんでした。今回の水害では1号館の1階が床上数センチの水位、地下階は水没状態になりました。また、図書館では多くの蔵書を処分せざるを得なくなり、さくらガーデンでは大きな鯉や鯰が見つかりました。もともと田んぼだったところだから当然といった、無責任な声も聞こえてきましたが、後の話です。

今回の水害は、谷沢川、丸子川や道路下の樋管の水が行き場を失ったために生じた内水氾濫です。水が引いた直後に、都市工学科の教員と学生により、詳細な調査と分析が実施されました。その結果は世田谷区に提供され、地域の災害対策計画に生かされています。都市大からは、キャンパスを地域の避難場所として提供することを提案しています。ちなみに、都市大前の信号機の柱には予想される浸水高さ4mの表示が出ています。また、建築学科により実施された地域の皆様への水害アンケート調査では、これらの都市大の活動は好意的に受け取られています。地域の方々と大学との連携が深まりつつあると感じています。

世田谷区からは現在建設中のB敷地(B棟)については、公共事業協力による風致地区の制限を緩和して、3mのかさ上げが承認されました。また、既設の建物については、水が建物に侵入しないように標高11mで防水壁の工事を実施しました。標高11mで今回の洪水に対して50cm程度の余裕があります。地下にありました電気設備などもすべて高いところに移設しています。被災した研究設備についても徐々にですが復旧しつつあります。

コロナ禍に対しては、学生の皆さんの安全確保を最優先

し、かつ、学修に遅れが出ないように運営しています。4月時点では新型コロナは夏までには終息

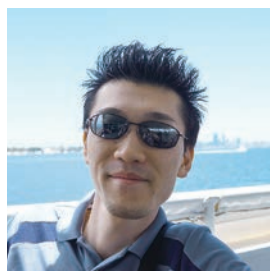
するだろうと言われていましたが、いまだに終息の気配が見えません。そのために、長いスパンでのコロナリスクと共生した教育が求められています。

都市大ではこのコロナ禍の下で、新学期の開始を予定より1か月半ほど遅らせ、5月18日から遠隔授業を開始しました。状況から見て、遠隔授業のほかにオプションのない状況でした。しかし、いきなり遠隔授業といっても教員のほとんどはその経験がなく、また、パソコンなどの機器類や遠隔授業用ソフトの整備もできていませんでした。できるだけ長い準備期間が欲しい、しかし、後学期への影響が出ない日程が、5月18日とした理由です。学生たちに向かってはパソコン所有の状況や自宅の通信環境などについてアンケート調査をしました。この度の校友会からの支援により約300台のパソコンを購入し、1年間の貸し出しをしました。貸出の際には、校友会からのご厚意を後輩に伝えていくようにとっております。

第3クォーターでは、対面授業と遠隔授業の組み合わせのハイブリッド授業を原則としています。教員が教室で講義し、それをオンラインで配信します。学生は対面授業か遠隔授業かを選択します。第1、2クォーターでの遠隔授業で見えてきたプラス面、マイナス面を反映した講義の形態と言えます。しかし、残念ながら第4クォーターに入り、11月27日からは原則、遠隔授業に戻すこととしました。今後も、学生の安全と教育効果を考えながら、状況により柔軟に対応していくつもりです。

学生の皆さんにとって、今の時間は一度きりであり、取り返しがつきません。コロナ環境下においても、決して大学での学びに欠落があってはなりません。将来、今の在校生が「コロナ世代」などと呼ばれることのないように、きちんとした学びを提供することが、大学としての責務と考えています。

引き続き、校友会の皆様には都市大の活動を見守っていただき、ご支援、ご鞭撻をお願いいたします。



パースからフリーマントルへ
向かうボートでの一コマ

フィッツギボンズ 雄亮 氏
(2002環境情報)

【学歴】武蔵工業大学 環境情報学部 環境情報学学科 (2002)、Dalhousie University [Master of Library and Information Studies] (2007)、McGill University [Doctor of Philosophy] (2013)
【職歴】Edith Cowan University, School of Computer and Security Science 講師 (2013-2016)、東京都市大学 環境学部 環境マネジメント学科 講師 (2016-2019)、東京都市大学 環境学部 環境経営システム学科 准教授 (2019-現在に至る)

ご出身、幼少期～中高生時代

生まれも育ちも横浜です。10年程海外で生活をしましたが、思い返してみると幼少期から英語との縁がありました。父が大型トレーラーの運転手だったということもあり、コンテナに書いてるアルファベットを言えたそうです。そんなことから、母が3歳くらいから近所の英会話教室に連れて行ったのが英語との出会いです、今から思い返すと、これが私と海外とのつながりを持つ最初の出来事だったと思います。

英会話教室の先生には、高校まで継続してお世話になっていたのですが、ことあるごとに絶対に海外に行きなさいと言われていたのが自然と海外に興味を持ちました。高校卒業後に留学をしてみたいと漠然と考えたこともあります。

大学時代～大学院時代～留学について

武蔵工大が第一希望だったとお伝えした方が良いのですが、当初は全く違うことを考えていました。たまたま母が環境情報学部の願書を手に入れ、合格を頂き進学することに決めました。学部時代に特にお世話になったのが、ゼミの指導教員の豊田冲人先生です。色々好きなことをやらせていただきました。

また、アメリカ生活が長いこともあり、色々な話をお聞きするのが楽しかったのを覚えています。卒業後に自動車部品メーカーに勤務していましたが、なかなか留学の夢を諦めることが出来ず、大学院に留学したい気持ちが大きくなりました。

そんな中、豊田先生が図書館情報学を勧めて下さいました。情報を「探しだす」ということが私に向いていると思われたようです。もし、先生のこの一言が無ければ今の私は無かったと思います。また、色々留学の情報収集をする中で、環境情報学部英語教員のブッセル先生がカナダ出身ということで、カナダについて色々教えてもらううちに興味を持ち、留学先に決めました。

ダルハウジー大学を選んだのは海が近い、日本人がいない都市に行きたかった(英語を上達させたいので)、そして出願の前にキャンパスを見学した時、非常に親切にしてもらったからです。

留学してからは驚きの連続でした。自分の英語力に少しは自信がありましたが、思うように英語が聞き取れない・話せなかったことにショックを受けたことを覚えています。それ以外にも毎日が新しいことの発見の連続でした。また、授業は各セメスターで4教科のみでしたが、予習・復習で精いっぱいでした。そんな中でも、苦勞を分かち合ったクラスメイト達と毎週パブで飲み歩いたのは良い思い出です。ちなみに大学院で出会ったクラスメイトの一人が今の妻です。

博士号の取得について～その後

修士論文はカナダの大学図書館における留学生の情報リテラシースキルをテーマに書きました。研究を進める中で、もっとこのテーマについて掘り下げたいと思い博士課程に進学を決め、論文指導教員の出身校であるマギル大学を選びました。

修士課程は大変ながらもクラスメイトと切磋琢磨しながら学びましたが、博士課程は「自分」の研究なので非常に孤独な闘いだったのが印象に残っています。指導教授の先生方のサポートもあり、どうにか無事に博士号を取得することが出来ました。

卒業が近くなり、就職先を探していましたが、2012年は北米の多くの大学が人件費の予算凍結をしており、面接に呼ばれてもその後採用が中止ということが数回ありました。そんな中、オーストラリアのエディスコーワン大学大学院の情報学プログラムの教員の募集をしており、専任教員として採用していただきました。

東京都市大学の研究・教育者として

偶然にもオーストラリアプログラムの開始準備をしていた本学との縁があり、2016年4月より現在に至ります。赴任して感じたことは、学生がおとなしいということです。自己主張をしなくてはならない国々に長く居たということもあるかもしれません。

研究ですが、高度情報化社会における情報リテラシースキルの修得方法や情報行動について取り組んでいます。英語圏で教えていたこともあり、本学での教育もそれに倣って行っています。一方通行ではなくお互いに学び合うという姿勢を常に心がけています。

国際人育成教育について

日本は非常に恵まれており便利な国です。その反面、現状で満足してしまっている学生が多いように思えます。都市大でも少しずつ留学や海外インターンシップ等に参加する学生が増えています。まだまだ自分から国外に出ていこうという学生が多くありません。積極的に海外に出ていく学生がもっと増えて欲しいと思っています。

都市大生へのメッセージ

Get outside your comfort zone ついつい自分にとって快適な場所にとどまってしまうですが、勇気をもってそこから出ていってみてください。苦勞した以上のリターンがあります！



カバッシュムワイルドライフパークでの一コマ



渡部 悠 氏

(2013都市生活)

神奈川県綾瀬市出身

2013年3月 都市生活学部都市生活学科卒業
同年4月 医療業務のコンサルティング、人材紹介を行う(株)メディウェルに入社
転職を検討する医師を紹介する事業を担当。
趣味・特技はスポーツ全般
大学卒業以降、校友会幹事として活躍
等々力会副会長

なぜ東京都市大学 都市生活学部へ進学を希望されたのですか

新設の学部で、新たに自分達で何かを作り出せるのではないかとこのころに魅力を感じました。文系で受験しましたが、理系にも興味があり、この学部には両軸の要素があることが選ぶ基準の一つとなりました。

学生時代の1番の思い出は何でしょうか

1番は「学生会」の活動ですね。1年浪人している分「何かやらなきゃ」って思ったし、年上の自分がみんなをまとめていこうと思いました。もともと人と話すのが好きで、小学生の頃から方向性を示して人をまとめて行くことが好きだったようです。他にはアルバイトを3件掛け持ちして、それを4年間続けました。もちろん、勉強も頑張りましたよ！

医療業務のコンサルティング、人材紹介というお仕事を選んだのはなぜですか

やはり人と話すのが好きだったので、人の価値を高めるといふ人材業界を選びました。この業界から大学への求人はなかったので、自力で探しました！

お仕事をやるにあたって心がけているのはどのようなことですか

転職相談者と時間をかけて話すように心掛けています。相手に興味を持ち、こちらが心を開くことにより、本音を聞かせていただき、信頼関係を築く事が大事と考えます。転職は医師としてのこれまでの経験や、これからのキャリアを繋ぐ大事な分岐点であるため、相手の家庭環境などのバックボーンを知った上で、その人にとって最良のサポートをしたいと思っています。

本音で対話することで、転職はせず現在の職場で頑張るといふ結果になることもあります。長く付き合う中で次の転職に繋がったり、知り合いを紹介してもらうこともあります。

これまでお仕事を続けてきた中で、忘れられないことはありますか

入社1年目に、直属の上司に厳しく叱責されたことですね。当時は「転職ありき」で営業成績トップになりたいと思って仕事をしていたので、その姿勢を見抜かれたんだと思います。

『自分が褒められるために仕事をするなら辞めろ！相手のためにならない転職をさせることが仕事ではない』と言われ、その悔しさがバネになり、自分自身の意識が変わったこともあり、その後担当した相談者と医療機関の双方から感謝され、またご家族からも感謝の言葉をいただいたことは大変嬉しい思い出です。

この2つが今の仕事に対する想いの原点になっているのかもしれない。

ご自身の仕事にやりがいをもって意欲的に取り組まれている渡部さんですが、今回は日々身近で観ていらっしゃる上司の方よりコメントをいただくことができましたのでご紹介いたします。

渡部君は与えられた仕事・やるべきことをきちんと期日までに遂行するという当たり前のことを丁寧にできることはもちろんですが、相手の期待を超えた質やスピード感のある仕事を積み重ねることで顧客との信頼関係をしっかりと結ぶということも日々体現しています。

そのため、弊社でも顧客信頼度の非常に高いコンサルタントの1人となっています。

これは決して一朝一夕でできるようになったわけではなく、渡部君が入社後に様々な失敗や成功の積み重ねの中でできてきたスタイルです。

渡部君の積み上げてきた経験を彼だけのものとするのは弊社としても大変もったいないことですので、今は渡部君にはチームのリーダーとしての役割も担ってもらっており、彼の持つ影響力を今後は社内にも存分に発揮してもらいたいと期待しています。

最後に、等々力会副会長として、今後校友会にどのように関わっていきたいとお考えですか

コロナ禍だけではなく、直接会えなくても手段を考え、繋がりを持つことが必要と考えています。そのためには、卒業生だけでなく、在校生との繋がりを作っていくべきで、自分ひとりではなく次へと繋げていく接点を持つことの重要性を強く感じます。他学科がどのような活動をしているのかわからないので、横の繋がりも作っていきたいと思っています。



インタビューを終えて

コロナ禍にあって週2日は在宅勤務、相談者の都合もあって週末に仕事をする事が多くなった渡部さんですが、1年ほど前に先輩に誘われて始めたサーフィンは続けていて、それが何よりのリフレッシュになっているそうです。

インタビューのなかで『人と話すのが好き』というフレーズが何回も出てきました。彼の持ち前の積極性と「人と話すのが好き」という特性を活かし、これからも公私ともに活躍されることを願ってやみません。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。



ホームカミングデーにて司会を担当している渡部氏



幅 聡氏
(1989電気)
千葉県松戸市出身
1989年 武蔵工業大学工学部
電気電子工学科卒業
原子力研究所原子炉工学研究室
(相沢研)
同年電源開発株式会社原子力部配属
原子力友の会幹事会メンバー

1960年に開設された原子力研究所は2020年で開設60年を迎えました。1968年から卒論生を受け入れはじめ、2019年までに学部・修士合わせてのべ679名が社会へと巣立ちました。中心設備である「武蔵工大炉」は1989年12月に運転を停止し、現在は廃止措置段階にあります。放射線を利用した研究は引き続き実施しています。今回は、武蔵工大炉が運転されていた最後の時代を原研で過ごし、現在は原子力業界にて活躍されている先輩からお話を伺いました。

卒業研究は原研で行われたということですが、当時のことで印象に残っていることをお聞かせください

原子炉物理といった分野が専門の相沢先生の原子炉工学研究室でした。テニス&スキー合宿もあり、みんなで楽しく過ごすことができたことが印象に残っています。また、当時(おそらく)助手だった松本哲男名誉教授の学位論文の手伝いをして、見事博士号を取得されたこともとても良く覚えています。

研究室以外の学生時代の思い出といえばどんなことがありますか

マンドリンクラブに所属し、3年生のコンサートでコンサートマスターを務めたことはとても思い出に残っています。

卒業後は原子力業界への就職をされたとのことですが、これまでのお仕事について教えてください

電源開発株式会社という電力会社に就職しました。最初の転勤先は、当時の動力炉・核燃料開発事業団(現在の日本原子力研究開発機構)新型転換炉ふげん発電所への出向でした。発電課で原子炉の運転を、保修課では主にタービン系の業務を行いました。新型転換炉という純国産原子炉の原型炉でいろんな苦労の末に運転が続けられ、発電所の運営だけでなく、行政手続き、地元調整等の多くのことを学ぶことができました。その後、電源開発株式会社に戻ってからは、原子炉の安全評価、教育訓練、原子燃料の加工・輸送等に関する業務を行ってきました。

2011年の震災の時にはどういった業務をされていたか

建設中の大間原子力発電所の初装荷燃料を加工しているところでした。震災がなければ、今頃は運転を開始していたと思うと、非常に残念でなりません。

震災後は福島での事故の復旧に関する業務にも携わられたとのことですが、当時の様子で印象に残っていることはどんなことですか

東電事故後、電力会社が主体となって、県内の放射線量モニタリングやスクリーニング活動に参加しました。現地に入っただけで線量の高さに驚いたことを記憶しています。普段、原子力施設で立ち入る区域の線量よりも高く、スクリーニングを行ってもバックグラウンド(周辺環境の放射線量)の方が高かったのは、本当にびっくりでした。

東電からの応援要請で約半年間Jヴィレッジに滞在し勤務しました。福島第1原子力発電所内外のモニタリングに係る業務でしたが、Jヴィレッジのサッカーグラウンド内に設置されたプレハブが 숙소となっていて、居住制限区域だったので、関係者以外の人はいない、開いているお店はほとんど無い!という住環境は、非常に辛いものでした。

現在はどのような業務をされているのですか

環境省に出向し、福島県内の除染に伴って発生した除去土壌を中間貯蔵施設に運ぶ仕事を行っています。県内各所で除染が行われ、その除去土壌が各地の仮置場に積み上げられています。福島の復興のために、これらを1日も早く無くすために、中間貯蔵施設に運んでおり、全体量は約1,400万m³です。これを10tトラックでピーク時約2,800台/日のトラックが中間貯蔵施設に向けて走行しています。これまで約1,000万m³を運んでおり、2021年度で概ねの輸送を終える予定となっています。

今年で震災から10年、福島の事故から10年という節目を迎えます

福島での復旧業務の経験を踏まえ、住民生活に多大な影響を与えてしまう原子力事故は、今後絶対に起こしてはいけません。原子力発電は必要と考えていますが、それを推進していくためには、更なる原子力安全を高めていく必要があることを強く感じています。

原子力安全工学科を卒業する卒業生をはじめ、これから社会へと巣立つ皆さんに一言メッセージをいただけますか

震災で原子力の状況が一変したこと、コロナ禍でいろんな状況が変わってしまったことを経験して、いつ何が起きるか分からない世の中になっています。自分のやりたいこと、やるべきことに信念をもって臨んでください。

また、それを実現していくために、実力をつけていくための努力も必要です。人間関係については、同じ会社内だけでなく、他社の方とも交流を深める機会を作り、いろんな人脈を作ることが大事だと思います。これからの皆さんの活躍に期待しています。



新型転換炉原型炉ふげん ([出典] <https://www.jaea.go.jp/04/fugenguide/>)



福島の「Jヴィレッジ」 震災後、約7年ぶりに再開へ(日本経済新聞)

「ホームカミングデー・オンライン2020」をWEBオンラインで開催

ホームカミングデー・オンライン2020実行委員会



今般の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年本学で開催される「ホームカミングデー」は開催中止となりました。残念ながら会員相互の親睦は少なくなっているのが実情です。このような状況下でも会員相互の親睦の継続維持を図るとの思いから、従来のホームカミングデーの特徴を交えながら新たにオンラインによる「ホームカミングデー・オンライン2020」を大学との共同主催で開催しました。

参加登録では、すべて校友会会員へインターネットメールによる開催案内とさせていただきます。その結果、北海道から沖縄までの全地域から、そして海外(6名 米国、カナダ、メキシコ、イギリス)からの参加者を含めて総数256名の参加申し込みをいただきました。従来のホームカミングデー開催中止をうけてからの開催案内通知までの期間の短かったにもかかわらず、多くの方々の参加をいただきました。参加者各位は、それぞれ自宅スマートフォン・パソコンを通して参加したことになります。また、初めてのWEBオンライン利用者も多いことを想定して、事前の利用ガイダンスを開催しましたが、ガイダンスでも、ネットの利用熟知だけでなく、相互の親睦に一役買ったとのことでした。

第一部では、三木学長からは、2019年台風19号による大学被災状況とその復旧、そして今後の災害発生時の大学の地域連携などをそして大上理工学部長からは、コロナウイルスに伴う大学の講義状況(学内講義、自宅での講義視聴の併用=ハイブリッド授業)などの紹介がありました。

第二部では、大学の現況ムービーをパソコン、スマートフォンを通して視聴していただきました。ムービーを通して大学の様子をおおよそ40分

間におよんで詳しく紹介されました。日頃直接に大学に足を運ぶことがない多くの方々には、一般の公共ニュースではない情報を含めて、距離、時間を超越した機会が得られたことと思います。

第三部では、ネット会議のブレイクアウトルーム形式を利用して、多くの懇談会場(37会場)を設けて、自分の希望の懇談会室に自由に参加でき、その懇談会室の仲間と自由な会話、懇親を深めてもらう趣向をとりました。特に、学科の懇談会場はもちろん、地域毎、クラブOB会ごとのさらには、開催主催者独自の懇談会会場のさまざまなジャンルでの懇談会場を設定し、新たなホームカミングデーを趣向しました。ただ参加者が十分に親睦するほどの時間のなかったとのこと意見もありました。

この懇談会では、海外参加者を含めて、全国のどの地域の方々も、自宅から参加交流できたことは、新たな発見であり趣向であったとの意見がよせられました。また、今後のホームカミングデーでも、学内開催時と同時にオンライン開催の要望が多かったことを紹介しておきます。

*従来のホームカミングデーでは、年次卒業生への郵送による開催通知でしたが、本開催では校友オンラインのメールアドレス登録者全員への開催案内通知とし、従来とは異なる手続きとなりました。参加期待をしている方々には大変ご迷惑をおかけしました。今後の周知ご連絡手段としてメールアドレスなどの登録(校友会事務局への連絡)を切にお願いします。

校友会 事務局

tel : 03-3703-3862 mail : koyukai@tcu.ac.jp

【ホームカミングデー・オンライン2020 開催概要】

主 催 : 東京都市大学、東京都市大学 校友会
実施期日 : 2020年12月12日(土曜日) 15:00～
実施方法 : オンライン会議ツール(zoomを利用)
プログラム

参 加 者 : 東京都市大学卒業生(全学部学科卒業生を対象) およびその関係者
開催案内 : 都市大校友オンラインによる全会員にメール配信(メール登録者対象)

【第一部】 開会挨拶 : 三木千壽 学長、原口兼正 校友会会長 大学現況 : 大上浩 理工学部長 校友会現況 : 松村慶一 校友会副会長
【第二部】 大学の現況ムービー ・ 2019年の浸水被害状況と復旧状況 ・ 新棟建築工事状況、完成計画 ・ 各キャンパス紹介
【第三部】 懇談会(ブレイクアウトルーム形式) 懇談会室数 全37室
学科(14学科)、地方支部地域ブロック(7ブロック他)、クラブOB会(14団体)、その他(海外在住、教職OB会)

2020年度の支部活動

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、各地方支部、職場支部には支部総会・懇親会の中止をお願いすることになりました。

「そのような状況の中でもできることはあるはず!」との思いから、リモートでの全国ブロック長会議、全国7ブロックでの支部長会議を開催しました。支部長をはじめ多くの方がリモート会議に参加したことで、新たな取り組みが生まれました。これを契機として、リモート会議や校友オンラインの活用・普及をお願い致しました。

前述の通り、恒例の総会・懇親会が行えなかったため、各地方支部で、その地域でご活躍なされている方の紹介を中心に寄稿していただきました。コロナ禍にあってもソーシャルディスタンスを取ってのイベント、リモートを使つての講演などを実施した支部には、その内容を寄稿していただきました。来年度にどのような支部活動を行っていただけるかはいまだ不透明ですが、各支部でできること、この状況だからこそできることを見出しいただければと願う次第です。

北海道支部

滝本 宏昭(2001土木)

私が勤めるJR北海道は、当支部を代表する会員数を誇ります。「支部活動だより」に代わり、弊社ならびに北海道のPRをさせていただきます。

JR北海道は、北海道を基盤とした長大なインフラ、かつ、積雪寒冷地という全国的にも過酷な環境下で鉄道事業を営んでおりますが、開発事業を手掛けても会社発足当初から厳しい経営が続いております。

このたった4行で、お読みいただいている皆さまには絶望的な会社映ったかもしれませんが、2030年の北海道新幹線札幌延伸や札幌駅における大型再開発事業など、明るい話題をお届けできるよう、社を挙げて取り組んでおります。

このような我が社に、現在は8名(土木6名、機械2名)のOBが在籍しており、土木・保線・運輸・総務・都市計画の広範な分野において、北海道の鉄道輸送を維持・発展させるべく業務に励んでおります。平成20年代後半には会社を揺るがす事故・不祥事などを起こし、まだ再建の途上ではございますが、私たちOBは、元気に頑張っております。

現在は外出しにくい状況ではございますが、JR北海道の列車に乗って北海道の地方部へ向かうと「北海道の広大さ」をご堪能いただけます。食・風景・ゆったりとした時間を是非、味わいに北海道へお越しください。

また、観光だけでなく生活の場としても北海道は魅力的な「大地」と支部会員一同が自負しています。「Uターン」「Iターン」の候補地として、下見がてらの来道も大歓迎です。

秋田支部

「私が大切にしていること」

副支部長 佐々木 和代(庄司)(1968家政)

2014年度に東京都市大学校友会秋田支部が発足して7年が経ちました。川村支部長を中心に旧武蔵工業会と旧美砂会の諸先輩の方々の努力により秋田支部の活動も軌道にのりつつありました。しかし、予想もしなかった新型コロナウイルス感染の為に、予定していた今年度の秋田支部活動は中止となってしまいましたが、支部会員同士がまとまって仲睦まじく活動できていることはとても嬉しいことです。

現在私は、茶道教授であった姑の後を継ぎ、自宅で茶道の指導をしております。茶名は「宗和」資格は「正教授」裏千家淡交会秋田支部の役員も務めております。

自宅の茶室での稽古と出稽古を合わせて50名程に指導しており、秋田市の千秋公園で行われる裏千家淡交会秋田支部主催の茶会も数回開催いたしました。

茶道は、日本を代表する伝統文化の一つです。私が日々弟子達を指導する上で、大切に心がけていることは、点前・作法はもとより、千利休が唱えている「和敬静寂」の精神です。古い伝統の精神を自覚して、小さい稽古場での修業が大きな茶会の成功につながっているのだと、最近身にしみて感じているところです。また、社会生活でも茶道の精神を誰もが持ち続けるならば、何事も平和に穏やかにまとまって行くのではと思っています。

新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈りつつ、最後に東京都市大学校友会のますますの発展を期待します。

合掌



秋田市合同茶会
(マイクで説明している佐々木さん)



裏千家淡交会秋田支部の茶会の様子
(左の指導者が佐々木さん)



佐々木さんの茶室にある生け花

山形支部

幹事 伊藤 豊幸(1981通信)

2020年2月8日に山形支部例会を米沢市で開催しました。今回の例会は米沢市の雪灯籠祭りの時期に合わせて計画したもので、当日は最初に祭り会場の上杉神社で雪灯籠見物を行いました。真っ白な白銀の世界に灯された雪灯籠は幻想的で見事な景観であり、その後地元の小野川温泉に移動し懐かしい思い出を語り合いそして米沢牛の料理を味わいながら懇親会を行いました。

今回開催地の米沢は歴史をたどると古くは独眼竜伊達政宗の生まれた地であり、上杉家の移封後は上杉藩の城下町として代々続いてきましたが、江戸時代中期に藩が財政困窮に陥った時、九代藩主上杉鷹山公が藩政改革を行い藩の存亡の危機を救った地でもあります。

普段地元にあってもその土地の歴史に触れることが少ない中で、このような機会を通してその土地の歴史に触れながら支部会員の研鑽と親睦を深めていくという面では、今回の様な例会は支部活動の一つとしても有意義なものであったと感じられました。

今後も引き続き種々趣向を凝らした企画を織り込みながら充実した活動にしていきたいと考えております。



福島支部

福島県文学賞を受賞して

紺野 浩(1971土木)

2019年は都市計画法が施行されてちょうど百年にあたります。日本の都市の時代を振り返り、郷土の偉人の功績を伝記とした「都市計画家 堀切善次郎伝」が第72回福島県文学賞に選ばれました。

明治維新の中央集権化により江戸から東京に変わった町は過密化が進み、新たな帝都構築に向けた市区改正が必要になりました。大正に入り後藤新平は政治家や経済人、官僚、建築や土木の学者などを巻き込み、市区改正を都市の計画として体系立て議論する都市研究会を立ち上げました。大正8年に内務省に都市計画を所管する都市計画課が設置され、初代課長の池田宏のもとで大正9年に都市計画法と市街地建築物法が公布されました。その後都市計画局に格上げされ、2代目の局長に福島県飯坂町出身の堀切善次郎が就任します。

堀切は後藤新平の薫陶を受け、関東大震災で被災した都市の復興に関わり、神奈川県知事や震災復興局長官を務めました。東京市長に就任してからは天皇のご臨席のもと関東大震災の復興記念式典を執り行いました。日本はその後海外に覇権を求め太平洋戦争に突入し、東京は大空襲で再び廃墟と化しました。堀切は終戦直後の幣原内閣において、戦後の日本を復興させる内務大臣に就任し、首都東京を二度にもわたり復興を指揮した人物になりました。



横浜支部

支部長 平川 完(1969電気)

横浜支部前支部長 山田秋夫さん(1960土木)が2019年11月ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私が山田さんと最初にお会いしたのは、武蔵工業会の企画委員会です。当時、山田さんは、東急の田園都市開発部長をしておられ、横浜支部長を辞められた後まで、30年以上の長い付き合いとなりました。五島育英会専務理事されていた時には、留学生懇談会等でも大変お世話になりました。退職後は、柏門技術士会等で活躍して来られたので、その頃からのことは、卒業生の皆さんの方が、よくご存知のことと思います。山田さんは武蔵工業会や校友会そして東急や五島育英会の人としても無くてはならない存在であったと思います。

横浜支部もコロナの影響下でも、2021年度からは支部会員の多くの方が参加出来る様な行事等の実施をすべく、幹事の皆と努力して行きます。ご協力して頂ける方またはアイデアを出して頂ける方がいらっしゃいましたら、平川までご連絡をお願いいたします。



横浜支部前支部長 山田 秋夫 氏

横浜支部行事等の詳細に関しては、校友会ホームページの横浜支部(<https://tcu-alumni.jp/branch3/yokohama>)をご覧ください。平川への連絡は(tanukuma@hotmail.co.jp)迄お願い致します。

川崎支部

「働きやすく生産性の高い企業・職場表彰取り組み事例」

(アップコン松藤展和社長)(1979年建築学科卒)

支部長 山岸 一雄(1979機械)

松藤社長は「学ば姿勢重視」の情熱社長。厚生労働省主催の「第3回働きやすく生産性の高い会社経営の企業・職場表彰」で最優秀賞(厚生労働大臣賞)を受賞。ノンフロン硬質発泡ウレタン使用で、床を壊さないで沈下を直す会社(旧武蔵工大・東京都市大学卒生は6名)を立ち上げました。荷物・機械等の撤去や、大型プラントの設置も不要なので、操業を止めないでの施工が可能です。

会社経営のポイントは、社員全員が「自主的」ではなく「主体的」になることです。決められた行動ではなく、「自分で考えて働きやすくする」ことです。そして、人員の確保です。社員が健康で病気をしない様に、「健活倶楽部」を立ち上げ、毎月1回以上のレクリエーション(フットサルやマラソン等)を実施したことで、2019年の遅刻者は0人になり、1年間無遅刻になると、プレゼントを受け取れます。

健活ポイントとは、8時前に出社(20pt)、会社と駅間の歩き通勤(5pt)、健康診断結果に注意項目なし(500pt)、タバコを吸わない人(1,000pt)等です。(喫煙者34%⇒2%)この健康経営での投資額は40万円(社員40名、1万円/名)と小さい投資で、大きな結果を出しています。

「社員の健康が確保出来ない、会社の経営も確保出来ない」理念は、今までのピンチに追い回された経験からのアイデアです。社員が健康で従事出来ることで、その親や家族が安心して会社に息子・娘を預けることが出来ます。

中小企業は地域の情報を引き寄せるので、相互に選ばれ共存・共栄する会社になり、定年退職が無いことから会社のノウハウが大きく蓄積されています。(9月15日に健康経営の広場主催の「働き方・生き方フェス」に登壇しました。ゲスト出演の脳科学者の茂木健一郎氏も参加。)

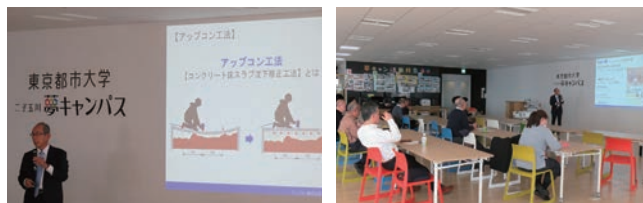


(情報誌タウンニュース川崎高津区版(新聞にも折込み)に川崎支部と共に掲載)(現役学生も講演会に参加しました)



アップコン工法施工前・傾いた新築住宅

健康経営の実践メリット



アップコン工法の説明

川崎支部定例講演会時の状況

川崎支部 講演会・行事等の詳細は、校友会HPの川崎支部へ(<https://tcu-alumni.jp/branch3/kawasaki>)(連絡先:k_yamagishi@hexel.co.jp 山岸宛(窓口))

神奈川・湘南支部

支部長 山田 眞久(1969機械)

対面による会合やイベントが開催できないコロナ禍にあって、オンラインを活用した「役員会、特別講演会」を実施しています。コロナ禍が一日も早く収まることを祈りつつ、今後も、対面形式とオンライン形式のハイブリッドで活動してゆきます。

1) オンライン支部役員会の定期開催

役員会を4か月に1回、定例的に開催し、事業計画、学生支援策、予算案などを企画立案、審議しています。



「オンライン支部役員会」の様子

2) オンライン支部総会の開催

10月31日オンラインによる支部総会を開催しました。支部会計報告・監査報告・2020年度事業計画・2020年度予算計画を各役員より報告し、承認されました。



「2020年度神奈川・湘南支部事業計画」説明

3) Zoomによるオンライン

特別講演会の開催

「太陽と水から素晴らしい水素の世界が!」を講演テーマに、山根公高博士(工学)(武蔵工業大学大学院機械工学専攻修了、神奈川・湘南支部幹事)に講演をお願いし10月31日に開催しました。昨年度までは、横浜キャンパスでの横浜支部、川崎支部、神奈川・湘南支部3支部の合同開催でしたが、今回は、初のオンラインによる単独での開催となりました。117名の事前登録、当日は、80名以上の参加がありました。講演後は「お楽しみ抽選会」を行い、和気あいの雰囲気の中、終了しました。

左：講演ポスター 右：特別講演 山根公高博士 下：お楽しみ抽選会



富山支部

宮本 千佳司(1995機械)

永田義邦先輩(1961通信)が令和元年秋の叙勲に際し長年に亘る地域産業並びに地域の振興発展に尽力された功績により名誉ある旭日双光章の栄に浴されました。

以下に同氏の表彰歴の一部をご紹介します。



永田 義邦 氏

【表彰歴】

- 2013年11月 高岡市民功労者表彰
- 2015年11月 富山県知事表彰
- 2016年 3月 日本商工会議所 会頭表彰
- 2016年 6月 厚生労働大臣表彰
- 2016年10月 全国中小企業団体中央会会長表彰
- 2017年11月 中小企業長官表彰
- 2019年10月 (公社)全国労働衛生団体連合会会長表彰
- 2019年11月 旭日双光章 受章

以下ご本人のご挨拶をご紹介します。

この度、秋の叙勲に際しまして、旭日双光章を拝受の栄に浴しました。これもひとえに、皆様の永年にわたる心温かいご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。(中略)今後は、この栄誉に恥じることをないように一層精進いたす所存であります。

引き続きご芳情賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健康とご多幸お祈り申し上げます。

東海支部

「ものづくりの楽しさ」

株式会社蒲郡製作所 伊藤 智啓(1982機械)

大学を卒業して、今年で38年になります。還暦で同級生は定年を迎える年です。

私は、卒業後すぐに父が経営する町工場を承継し、以後経営者としてもものづくりを行ってきました。父から「会社を継ぐ気があるかと聞かれ、「モノづくりは天職だから。」と大口をたたいて入社しましたが、私がなりたかったのは、誰にもできないものづくりができる一流の職人でした。優れた経営者になるべきなのに目指した道が違っていったことで悩んだこともありましたが、40歳の時に父が亡くなったことが転機となり、自らいろいろなことにチャレンジをしました。その中で一番は、インターネットとの出会いです。自作でウェブサイトを開設して、自社の強み・ウリを情報発信することで全国のお客様からお仕事をいただけるようになりました。インターネットが普及したことで、愛知の片田舎にある町工場が全国と仕事ができるようになりました。また、大企業の設計開発や研究機関との取引も増えて、提案型企業へ変革しました。

当社は、社員数12名の小規模企業ですが、一昨年3月に世界で初めてブラックホールの写真を撮影した際に大きな貢献をしたアルマ望遠鏡の受信装置の重要パーツを国立天文台の依頼で製造したり、グーグルが昨年まで開発していた災害救助用のロボットの部品を製造したり、分子科学研究所の様々な研究装置部品の製造をお手伝いしたりといろいろな分野で社会に貢献しています。現在は、新型コロナ禍で売り上げが減少し厳しい経営環境ですが、仲間の同業者20社で「くだらないものグランプリ」を企画して、自社の技術を生かしてくだらないものを作ることで、モノづくりの楽しさを再認識し、笑っていただける取り組みを行っています。

https://peraichi.com/landing_pages/view/34cx4?fbclid=IwAR2wQgXcNpRKZ57R8tdavHuti8t3rmJ2MrLqRAz1yD2EH6yPIMKw1F7pJuE



京滋支部

佐藤 弘(1978土木)

私は2007年4月から大津市議会議員として活動しています。大津市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所が実施した議会改革度調査で、中核市において2015年度から2018年度まで連続1位になるなど高い評価を受けています。

これまでの活動では、防災士として活動する大坪賢一さん(1965土木)の要望から、地域防災リーダーに防災士の活用を提案し、防災士養成講座が始まりました。

また、IT専門家の必要性を訴え、CIO補佐官の採用や、市民サービスのICT活用、議会運営にタブレット端末の導入など市役所の電子化を一貫して進めてきました。こうした取り組みの思い入れは、卒論でFORTRANのプログラムを実行し、地震波を描いたときの感動が原点にあるように思います。

窪島隆一郎さん(1965電気)とは地元の企業に移籍してから交流が始まりました。コロナ禍の4月に当該企業がウイルスを溶解するマスクのフィルタを発売すると、新聞・テレビで報道され、大きな反響がありました。その後、同フィルタを滋賀県、京都市、東京都、大阪府などへ寄付を希望され、各自自治体との橋渡し役をいたしました。

この他にも、多くの都市大OBOGの皆さんに関わっていただいていることに感謝し、今後も全力で活動を続けていきます。



中央左が滋賀県中條絵里副知事、右が窪島さんが在籍の寄贈者の大木工芸社長、右端が私

兵庫支部

「努力は嘘をつかない」

〔略歴〕

- 1934年 神奈川県生まれ
- 1958年 武蔵工業大学
建築学科卒業
- 1976年 株式会社宮本工務設計
事務所 代表取締役
- 1995年 宝塚商工会議所会頭
(初代会頭2019年ご退任)

兵庫県建築士事務所協会元会長、
報徳学園理事・同窓会長、宝塚高原
ゴルフ理事長
叙勲：旭日双光章、黄綬褒章、紺綬
褒章受賞

宮本 博司(1958建築)



宮本設計は兵庫県の土木技師であった故宮本武治郎氏により1946年に創業。宮本さんは結核を患うという厳しい状況の中、報徳学園を卒業して日吉に住む姉を頼り母校武蔵工大に入学されました。卒業後父の設計事務所に入所された宮本さんは、戦後の住宅

不足とその資金不足という大変な時代を経て、同社を最盛期には100人を超える設計士を擁するまでの会社に育て上げました。

建築家・実業家として活躍されていた中での阪神大震災、復興を目指す宝塚市長に商工会議所の設立を要請され、混乱の中、大変な苦労を経て商工会議所の初代会頭にご就任、一昨年までその重職についておられまして、関西経済界の重鎮として今も活躍されておられます。

この度、学生時代の思い出をお伺いしたところ、「製図提出の厳しい期限」のことを語られました。必死で課題をこなす訓練がその後の仕事に大いに役に立ったそうです。「他大学の出身者に比べ武工大卒業生の技量ははるかに高い。また、卒業生の少ない近畿地区でも各方面で活躍している先輩・同窓生がいて色々助けられてきた。」と、後輩たちにとって励みになるお言葉をいただきました。影響を受けた建築家としては母校出身の四国の松村正恒先生、母校の交換教授でもあった東京芸術大学教授山本学治先生。座右の銘は「先んずれば人を制す」。

ご長男は東大を首席で卒業し、ヴェネツィア・ビエンナーレ建築展にて金獅子賞を受賞(磯崎先生と共同)した建築家で大阪市立大学教授(工学博士)の宮本佳明氏。奥様はソムリエの資格をお持ちで、ご夫婦でワインを楽しんでおられるそうです。

鳥取支部

支部長 藤谷 治男(1968建築)



鳥取支部からは、金属熱処理業界で活躍する1978年機械工学科卒の馬田秀文君を紹介させていただきます。

当時、鳥取県には金属熱処理加工業者がなく、県内の製造業には大きなハンデとなっていました。そこで鳥取県は工業試験場内に金属熱処理工場を建設し、熱処理技術の提供を目指して、予算申請の準備を開始しました。同君は大学を卒業すると同時にその担当者に抜擢され、金属熱処理技術習得のために日立金属(株)安来工場やその関係会社に出向しました。工場が完成するまでに2年を要し、同君の出向も2年に及びました。

完成した熱処理工場は諸事情により県での運営を諦め、新しく設立された鳥取県金属熱処理協同組合(現在は協業組合)に委ねられ、同君は組合の職員としてその第一歩を踏み出しました。元来真面目であった同君は、金属熱処理技能士に挑戦し、二級、一級を経て1997年には特級技能士に合格し、1998年に開設された鳥取県高度熟練技能者第一期の1人にも認定されました。また、同君は技能者のみならず技術者としても学術的な研究論文を纏め上げ、2005年には鳥取大学大学院から博士(工学)の学位を授与されました。更には2011年に、一般社団法人日本熱処理技術協会から初の技術精励賞を受賞しました。

同組合は当初、職員3名の小さな事業所でしたが、設備を増強し、特許を含む独自技術や管理技術が評価され、創立40年の現在では職員が34名、顧客数が800社、年商は5億円を超える事業所となりました。同君は技術課長、工場長を歴任し、現在は専務理事として事業経営にその手腕を発揮しています。

広島支部

支部長 山田 正一(1969土木)

広島支部は、2020年で設立40周年を迎えました。記念事業として、『第37回全国都市緑化ひろしまフェア』の開催に合わせて講演会の計画をし、ひろしまフェア実行委員会、ひろしまフェア推進協議会と共催事業として準備に入りました。昨年の2月頃から、新型コロナウイルス感染症の拡大により計画の延期、見直しを余儀なくされました。2020年10月17日(土)に開催しました。東京都市大学のコロナ禍の対応のため、広島支部単独事業となりました。

コロナ禍の中、新しい生活様式を順守して、先着順の事前申し込み制、オンライン配信(ライブ)としました。事前申込200名と関係者50人、オンライン配信200件、オンデマンド863件という結果でした。校友会支部ニュースにUPしました。2021年1月30日現在。



中国新聞
2020(令和2)年
10月18日

熊本支部

副支部長 笠 愛一郎(1977電気)
熊本県商工会連合会会長

オイル・ショックによる不況の最中、1977年に卒業し、昨年で68歳、43年が経過しました。令和元年秋の褒章に際して「中小企業振興の功績」により、藍綬褒章受章の栄誉に浴しました。さらに一昨年は、天皇陛下御即位熊本県奉祝委員会会長に就任、4月・11月の「国民の祭典」、12月の皇居に於いての新天皇陛下の拝謁と日本の時代の変り目と人生の節目を体現する年となりました。

しかし、図らずも自身の昨年2月11日の受章祝賀会開催後は「新型コロナウイルスの感染拡大」を受けて、熊本でも以降全ての会合、会食を含めて、多くの社会・経済活動が停止状態となり、私達の営みの様相は一変しました。

1977年武工大を卒業後、日本電信電話公社(現・NTT)に入社。4年後会社を起業、1989年から17年間市議会議員として、政治活動、2003年から地元菊池市商工会の会長を経て、県下49商工会会員事業者21000余の支援機関としての経済団体である熊本県商工会連合会の会長に2019年に就任しました。

2016年4月の熊本地震の発災から4年目、まだまだ熊本は被災事業者の8割が元の経営状態に戻っていない中のコロナ禍、そして7月の豪雨災害と事業者は二重苦、三重苦の深刻な状況にあります。国や県市町村そして関係機関と連携し、今後この感染症の影響が長期化する中で、地域に於ける唯一の経済支援団体として、しっかり事業者を支え責任を果たしていきたいと考えています。

地方の経済、そしてコミュニティは、中小企業小規模事業者によって守られています。しかし、全国127万社が後継者未定・大量廃業時代に向かっています。事業承継が最も重要な課題であります。

私自身、就任を機に経営する2社をM&Aにより、事業譲渡を果たしました。今後、求められる期間、コロナ禍を乗り越え、地方の経済を次へ繋ぐ為、「最後のご奉公」として専念したいと考えています。



飛島柏会支部

飛島柏会支部 塚本 大毅(2019都市)

2019年に都市工学科を卒業後、飛島建設に入社。期待の若手現場監督として活躍中の首都圏土木支店多摩北給水作業所 塚本大毅(つかもと だいぎ)さんに、業務内容や仕事のやりがいについてお話を伺いました。[聞き手:川里麻莉子(2009都市)]

●工事概要を教えてください。

工事件名: 多摩北部給水所(仮称)築造工事
発注者: 東京都水道局(多摩水道改革推進本部)
工事場所: 東京都清瀬市梅園一丁目3番地内
工事概要: 送配水施設整備事業の一環として、配水池×2(土木工事)、ポンプ棟・屋外倉庫(建築工事)の新設工事および場内配管設備、配管附属物を設置。
工期: 2018年4月10日~2021年5月24日(37ヶ月)
進捗状況: 2020年11月現在、配水池×2・ポンプ棟の構築は、概ね完成に近づき、場内配管設備の工事がメインで行われています。

●入社2年目の塚本さんの職務内容を教えてください。

安全当番・測量・工事写真の撮影と整理が主な業務です。安全当番では、毎朝、作業員に対して現場で注意してもらいたい場所や一日の流れを説明し、安全かつ円滑に工事を進められるようにしています。測量業務では、作業の進捗に合わせて位置や高さを計測しますが、都度測量のやり方を自分で考えて計測しなければならない、間違えてはならない難しい業務です。

工事写真は工種ごとに使用材料や施工状況など、特に、施工後に見えなくなってしまう箇所を漏れ無く写真を撮り整理しています。

●この仕事のやりがいを感じた瞬間はありますか？

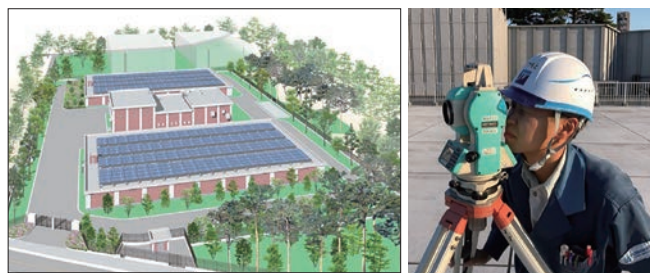
私が配属された時が構築工事の全盛期でした。足場を建て、型枠を組み、コンクリート打設をする。足場の解体が終われば建物の全景が見えた時に感動しました。その瞬間にやりがいを感じました。

●ご自身が仕事を通じて成長したと感じるところを教えてください。

コミュニケーション能力です。現場監督という仕事は、作業員に指示を出して物を作るので、相手に自分の考えを伝え理解してもらわなければなりません。人への説明の仕方は成長できたと感じます。

●今後の目標をお聞かせください。

入社4年目に受験できる一級土木施工管理技士の取得を目標に日々の業務に取り組んでいます。誰からも技術的に信頼される技術者に成れるように努力します。



トヨタ自動車東日本支部

佐藤 亮(2019エネルギー化学)

●本業について感じていること

自分の担当する「車両塗装」は、色を扱う部門で感覚に頼る部分も多いです。塗料を決める際、色もデータとして計測はしますが、それだけでの判断は難しく、最後はヒトの目で見て塗料を決定します。技術的な部分と感覚的な部分の双方が必要であり、難しいところもありますが多方面の技量を磨くことができ、やりがいを感じています。

●ヤリスクロス

研修中に4人グループで、様々な方の協力を頂きながら、「ヤリスクロス」の生産準備に携わらせていただきました。分からないことばかりでとても苦労しましたが、自分達の作った設備を通り、完成車となった車を見たときはとても感動しました。



本社・宮城大衡工場にて撮影



塗面検査風景

都会的なデザイン。コンパクトながら収納スペースも広く、悪路も大丈夫なSUVならではの走行性能。性別・年齢問わず、幅広いお客様に乗っていただける車になっております。ぜひお近くの販売店まで!

●後輩へのメッセージ

会社では仕事でも趣味でも、何かに夢中な人が強いという印象です。学生で時間があるときに色々なことに挑戦・経験して夢中になれるものを見つけてほしいです。

富士電機柏会支部

松岡 洋平(2015機械)

富士電機柏会では総会を年1回開催、その他にも年数回の懇親の場を設け、社内における横の繋がりを大事にしております。

2019年度の富士電機柏会総会は2020年2月7日(金)新宿にて開催致しました。主に首都圏の事業所で勤務する計14名の会員の方々にご参加頂き、柏会の活動報告や参加者の自己紹介及び近況報告を行いました。また、本総会にて役員改選を行い、20~30代の会員も役員メンバーとなり、これまでよりも事業所間の隔たりを埋め、本会を活性化させていこうと考えております。

今年度は新たに13名の新人を迎えましたが、新型コロナウイルスの影響により、恒例の新人歓迎会が開催中止となったため、各事業所での新人フォローを呼び掛けております。



ライト工業柏会支部

～五島慶太未来創造館を尋ねて～

関 徹也(1992機械)

年齢50を過ぎて半生を振り返ると、東京都市大学(旧武蔵工業大学)を中心とする五島育英会及び創設者の五島慶太翁とご縁が深い事がわかってきた。

慶太翁は長野県小県郡青木村出身だが、私は両親が小県郡出身である。慶太翁が3年間毎日往復24km歩いて通った現在の田上高校は、祖父の母校だ。上田市の病院で生まれた私は東京都町田市で少年時代を過ごし、何故か武蔵工業大学付属中学校に入学した。以降、青春時代の12年間を五島育英会で過ごした。専攻が機械工学だった私は当初メーカー志望であったが、気が付くと特殊土木会社のライト工業に入社し、最初の研修現場が東急建設JVの工事であった。大学の先輩が当JVにいたため、後輩として可愛がって頂いた。社会人になってからも同じ研究室出身メンバーと共に「柏会」というチーム名でソーラーカーレース鈴鹿に2001年から2017年迄参戦して好成績を残し、2020年には大学時代のバレーボール仲間だった白木教授のお手配により、校友会にて「柏会」のレース経歴や活動報告をさせて頂いた。当社内でもOB会として柏会活動を定期的に行っており、今でも五島育英会とのご縁は続いている。

慶太翁の事は漠然と聞いた事はあったが、どんな偉人だったかの詳細は知らなかった。その功績は簡単に記述出来るような内容ではない。事業家・文化人・政治家・教育者といった多くの側面があるからだ。11月3日、青木村に2020年4月18日オープンした『五島慶太未来創造館』を訪ねた。未来を見据え、都市を拓き、人を育てた我々のルーツである慶太翁の魅力が詰まった記念館であった。

一番印象的だったのは「なあと」の精神。私も慶太翁の様に、どんな困難にぶつかっても「なあと」と言える後半生を過ごしたい。





新型コロナウイルス禍における都市大の教育

副学長(総括・教育担当)

大上 浩(1981機械)

わが国で新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた2020年2月頃より、本学では多くの教育活動を白濁し、前期については5月18日の授業開始が決定され、第1クォーターは対面授業を行わないこととなりました。コロナ禍において学生と教職員の健康を守ることと、学びを止めないことを何よりも優先した決定でした。学生に対してはPC購入の推奨・貸与、教員に対しては、遠隔による授業や学習支援のためのツールの提供やFDを精力的に行いました。その結果、前期は大きなトラブルの発生がなく学生からも大きな不満は寄せられませんでした。

この体験を新しい学習・教育システム構築の絶好の契機としなければならぬとの思いは、後期授業における、対面授業と遠隔授業を同時並行で進行させるハイブリッド授業への展開に結びつきました。感染リスクを危惧する学生の気持ちを尊重し、かつ、キャンパスにおける対面授業を熱望する学生にも応えるための選択でした。

結果としては、前期の全面遠隔授業における経験が、一段上のレベルであるハイブリッド型授業へと結実したと考えています。今後は、withコロナ下におけるより高いレベルの学習教育システムを構築していくことが不可欠です。

卒業生の皆様には、今後とも、本学の教育に一層のご理解とご支援をいただきますよう、お願いいたします。



2020年度の研究活動

副学長(研究担当)

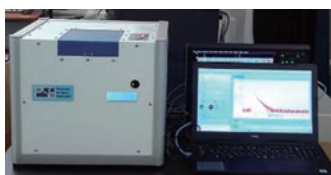
野中 謙一郎

2020年度の研究活動に関してはコロナ禍の影響により活動全般が遅延、停滞しており今後、いかに挽回してゆくかが喫緊の課題であります。一方で学内での研究活性化に向けた活動や学外との連携による新しい試み・研究展開がコロナ禍中にあっても着実に進行しております。以下、簡単にその内容をご報告申し上げます。

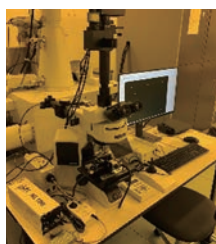
まず、学内での研究活動活性化に関するソフト面では、新任教員の研究テーマに対してdisciplineの異なる学内研究者が協働し一つの課題に取り組む融合研究をスタートする出会いの場となるイノベーションサロンを継続開催いたしております(2018年9月に第1回を開催し、以後、2020年8月18日まで8回開催)。既にいくつかの融合研究の芽がめばえており学内研究者間のコミュニケーション活性化が図られております。次に研究環境のハード面での充実に向けては、鈴木正昭様(昭和38年工学部電気工学科卒)より頂戴いたしましたご寄付(8000万円)の趣意書に従う機械系、電気系学科の研究設備充実として陽電子寿命測定装置(1000万円)とマスクレス露光装置(1500万円)を導入し、現在、両学科での先端研究に活用中です。

最後に学外での活動として渋谷スクランブルスクエア(SCSQ)イノベーションプロジェクトへの参加を挙げさせていただきます。これは東大、東工大、早稲田、慶応、そして本学を加えた5大学の教員がイノベーション創造に向けQWS(Question with sensibility; キューズ)の観点から、個別での取組と大学間連携での取組をSCSQ(東棟)15階で展開するものです。本学として『都市研究の都市大』をアピールする絶好の場として捉えております。

卒業生の皆様には引き続き本学研究活動へのご理解、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。



陽電子寿命測定装置(上図)と
マスクレス露光装置(右図机上の機器)



東京都市大学キャンパス再整備事業 世田谷キャンパスの約3分の1をリニューアル

東京都市大学は2019~24年度にかけて、本学のメインキャンパスである世田谷キャンパスにおいて敷地面積の約3分の1をリニューアルする「東京都市大学キャンパス再整備事業」を実施します。

本事業は、本学が創立100周年(2029年)に向けた中長期計画「アクションプラン2030」の一環として行うもので、新棟2棟(仮称A棟・B棟)を順次建設し、良質な学修環境を整えるとともに、等々力キャンパス(世田谷区等々力8丁目)と総合研究所(同)を世田谷キャンパスに移設することで、大学運営の更なる効率化や教育研究上のシナジー創出を目的とするものです。

更に防災、地域交流における拠点機能も強化し、地域の中核施設としてこれらの課題に貢献し、地域に開かれた構造(オープン化)のキャンパスとしても整備を進めていきます。

主要教育研究施設

世田谷キャンパスの既存校舎(A地区:6・7・15・16号館、B地区:8・10・13号館)を解体して、A地区新棟(仮称:A棟)は等々力キャンパス2学部(都市生活、人間科学)の教育研究施設・ワールドラウンジ・ラーニングcommons・大教室を中心とした建物とし、B地区新棟(仮称:B棟)は理工学系教育研究施設を中心とした建物とする。



■ A棟

構造	鉄骨造4階建
規模	延10,096.12㎡(3,054.07坪)
竣工	2021年度(予定)



■ B棟

構造	鉄骨造5階建
規模	延13,536.10㎡(4,094.67坪)
備考	当該建物については二期に分割して新築工事を行う (I期:11,220.60㎡、II期:2,315.50㎡)
竣工	I期:2022年度(予定)、II期:2024年度(予定)



コロナ禍の経験を、新時代の都市大教育へのステップに



教育開発機構 副機構長・
FD推進センター長
伊藤 通子

今、東京都市大学は、激変する社会の新しい時代に活躍する卒業生を世に輩出すべく、中長期計画「アクションプラン2030」に基づいた教育改革の真っ只中です。創立100年を迎える頃には、これまでの伝統や実績を土台としたワンランクアップの大学となっていることを目指しています。

そんな中での、コロナ禍です。

まず、毎年2月に開催していた約700名の入学予定者のためのワークショップが中止となりました。今回は、新しく始まる教育のリーダー育成をねらい、全面リニューアルして実施する予定でした。続いて、3月の学位授与式、4月の入学式典…多くの教育活動が次々と自粛を余儀なくされ、新年度も一か月以上遅らせた5月18日からの開講が決まりました。そして、政府の「緊急事態宣言」発令により、前期は全ての授業をオンラインで行うという基本方針が出されました。これは、学生と教職員の健康を守ることと、学びを止めないことを何よりも優先した苦渋の決断でした。教育開発機構では、その基本方針に沿った各種ガイドライン類の策定やICT教育環境の整備など、組織を挙げた文字通り不眠不休の準備が始まりました。

学生はキャンパスライフを奪われ、教室での勉強はおろか、大学に入ることさえもできませんでした。新緑のキャンパスに学生の姿がなく明るい声が響かない風景は、開学以来、初めてのことだったのではないのでしょうか。

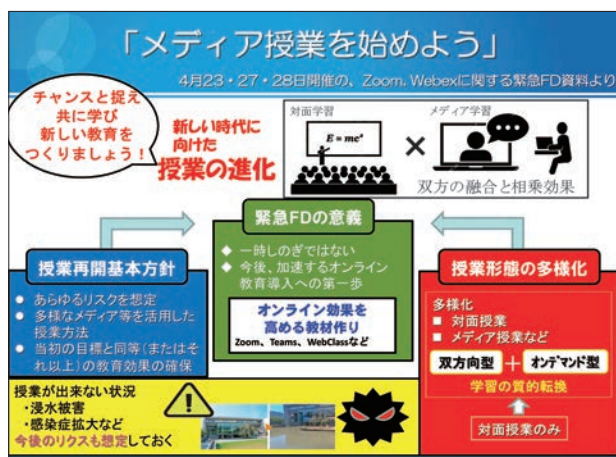
世界中の大学の多くが同様の事態となりましたが、本学は「オール都市大」で、コロナ禍といえども豊かな学びを守ることに果敢に挑みました。教員は、オンラインに適した授業を工夫し

様々なICTツールを使った新しい教え方に挑戦しました。職員も変則的な勤務態勢の中、教育環境整備に尽力を惜しみませんでした。FD推進センターでは、多くのオンライン研修会を開催、知恵の交換のためのオンライン・プラットフォームも開設しました。非常勤講師も含めた教職協働で教え合い、支え合いながら、それぞれの授業を作っていました。学生たちも、上級生による新入生履修相談やオンライン懇親会等、SNSや会議アプリを駆使し、独自に新しいネットワークを構築しました。リモートアシストの団体も自発的に立ち上がり、既存の学生団体とも連携、キャンパスを越えて活動し、なんと、授業改善提案もしてくれました。

このようなオール都市大の努力により前期は大きなアクシデントもなく乗り切りました。後期は、キャンパスで学びたい学生と感染リスクを抑えたい学生、どちらも学ぶ場を選択できるように、全授業を対面とオンラインのハイブリッド型授業とし、一部の学生たちがキャンパスに戻ってきました。ところが11月下旬の感染拡大に伴い、本稿執筆中に、再度フルオンラインに戻すという状況になってしまいました。

COVID-19に翻弄され疲労していないと言えば嘘になりますが、私たちは沈んでばかりいるわけではありません。この間、教職員も学生もICTスキルが格段に上達しました。多様なツールを駆使したグループワークやディスカッションを通して理解度を向上させ、創造力を伸ばす授業も増えています。教室設備の整備も進みました。オンライン授業は録画され学内開示がされるようになったため、個々のペースで何度も視聴して学ぶことができます。キャンパスや学部を超えた授業や会議も普通になりました。

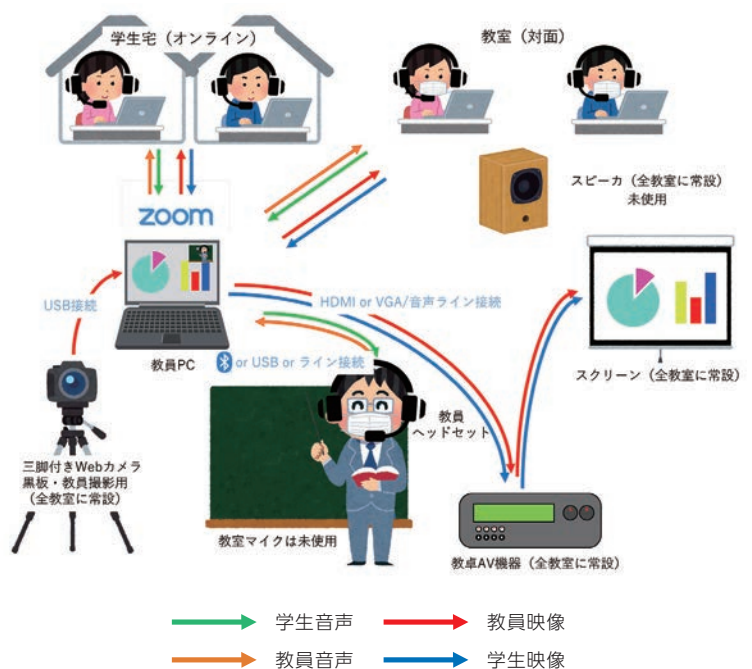
コロナ禍で得た授業づくりの知見やアイデアを披露し合い、チャレンジングな授業を称え合う「TCU-教育フロンティア賞」も新設しました。目指すは、ICTを最大限に利用しつつも、キャンパスで学ぶ楽しさを大切にする、Beyond コロナの新しい都市大教育です。



多くの様々なFD(教員の研修会)を開催し資料も作成



伊藤先生の専門「プロブレム学習」の本、出版



情報基盤センターと協働して教室設備を充実

理工学部長挨拶



理工学部長
大上 浩(1981機械)

2020年4月から世田谷キャンパスの理工学系2学部を時代の要請に応じた3学部に変更しました。工学部を理工学部に名称変更し一層の充実を図るとともに、伝統の建築分野や情報分野は存在感を際立たせた学部名称になりました。本学創立期以来の工学部の名称を「理工学部」に変えたことは、2009年の武蔵工業大学からの校名変更に次ぐ大改革だと考えています。

理工学部は、学科構成を大きく機械系、電気系、応用科学系の3系統で編成しています。機械系は「機械工学科」と

「機械システム工学科」、電気系は2019年度に設置した入学定員150名の大規模学科である「電気電子通信工学科」と「用工学科」で構成し、伝統ある工学部の分野を堅持しています。応用科学系では、既存の「エネルギー化学科」「原子力安全工学科」に加えて「自然科学科」を新設し、理学系の分野を担います。2021年4月には「エネルギー化学科」を「応用化学科」に名称変更し、さらに理学科を強化します。

理工学部に変更しても「理論と実践」という教育理念は変わりません。科学技術の根幹をなすものづくりを支える工学に、新たに自然科学における真理を探究する理学を融合させ、先進的な技術の知識と論理的思考力を備えた人材を理工学の名の下に育成することを目指します。

withコロナ/afterコロナ社会の構築を図るための人材養成



情報工学部長
田口 亮

いま、私たちは100年に1度と言われるパンデミックに遭遇しています。そして新しい生活様式の実践を求められています。ところで、新型コロナ禍が起こる前から、テレワークやオンライン診療、遠隔授業など、遠隔で何かを実施しようとする社会の流れを国が「Society 5.0」という言葉を使って推進しようとしていたのです。withコロナ、afterコロナの時代において「Society 5.0」への流れが一気に加速することになるでしょう。本学部は2020

年度から「知識工学部」から「情報工学部」に名称を変更し、その人材養成の目的を『「Society 5.0」の形成と発展に寄与する「知の創造」を担う人材を養成する』としています。情報科学科と知能情報工学科の2学科構成で、この2つの学科の教育・研究により「Society 5.0」に必要な技術分野である、計算機工学、IoT、AI、ビッグデータ解析、自動運転、リアルタイム翻訳、VR(仮想現実)等を網羅しています。

「Society 5.0」を形成し牽引する人材養成に本学部教職員は全力を尽くす所存です。校友会の皆様には学部名称が変更されましたが、引き続きのご指導をお願いする次第です。

建築都市デザイン学部新設について



建築都市デザイン学部長
勝又 英明(1980建築)

2020年4月1日に建築都市デザイン学部が新設されました。建築都市デザイン学部は建築学科と都市工学科の2学科から構成される学部です。従来からありました工学部建築学科、都市工学科からこの2学科が独立して改組されたものです。ご存知のようにこの2学科は、共に92年前の本学創立期にルーツをもちます。

建築都市デザイン学部は、「建築、社会基盤施設から都市デザインまでをフィールドとし、持続的な建築・都市の創造・再生を実現するため、社会の要請に対応できる高い

能力を備えた人材を養成する」ことを人材の養成及び教育研究上の目的としています。「建築都市デザイン学部」は、「建築」と「都市」と「デザイン」を中心課題としていることを表現するためにこの学部名称を選定しました。英訳名称は、「Faculty of Architecture and Urban Design」となっています。

私は今年度で定年退職となりますので、学部長の責務は2020年度一杯となります。次期学部長は都市工学科の末政教授が選挙で選出されております。建築学科、都市工学科の卒業生の皆様には、これからの建築都市デザイン学部を温かい目で見えていただき、絶大なる応援を頂ければと思います。

機械工学科

主任教授 榎 徹雄

卒業生の皆様方には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。以下に、令和2年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

卒業と就職状況 昨年3月には入学者数の関係で例年より少ない人数となりますが、機械工学科を98名が卒業し、その内32名が大学院修士課程(内、他大学大学院3名)に進学、66名が就職となり、その結果就職率100%を達成致しました。また大学院では、29名の修士修了生について29名全員が就職という結果でした。

新入生 本年度の入学者数は最終的に124名(うち女子7名)となり、大学院機械工学専攻修士課程には30名が入学しました。特にTAP(2年後期でのオーストラリア留学)には、本年度は13名が登録を行いました。残念ながら本年度はコロナの影響で留学自体が見送り(予定)となりました。

その他 新入生のフレッシュャーズキャンプも、本年度はコロナの影響で中止となりましたが、後日学内の複数教室を使用して三密を避けた形でのミーティングを実施し、新入生同士の対面での初顔合わせをすることができました。自由参加形式でしたがたくさんの中入生が参加し、たくさん

の「よかった」との声を頂きました。その他、本年度の機械工学科の活動としてJABEE(日本技術者教育認定機構)の技術者教育プログラムの中間審査を受診する予定です。このように学科教員一同、教育・研究の改善に努めております。



写真は三密を避けたハイブリッド授業の風景例(多くの学生はオンライン授業のため、閑散とした教室となっております)

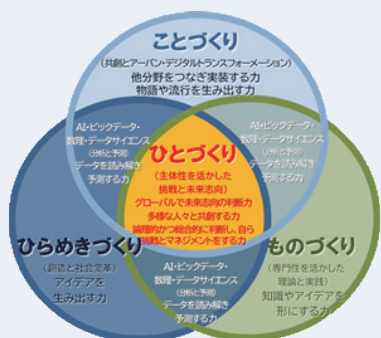
電気電子通信工学科

主任教授 岩尾 徹

4月に、電気電子通信工学科2期生である147名の新入生を迎えました。今年度は、コロナ禍ということで、フレッシュャーズキャンプは中止となり、数回のガイダンスの後、5月中旬から新学期がスタートしました。前期はメディア授業となりました。後期は対面とメディア授業の両方を行うハイブリッド授業となり、学生が大学に戻ってきました。学生実験も対面で行っています。ただし、第4Qは、残念ながら学生実験を除いてメディア授業に戻ってしまいました。しかし、前期のメディア授業のノウハウを活かしながら、学生の理解度や満足度の上がる授業を展開しています。

学科のニュースとしては、昨年度、電気系で日本最大級の大規模な授業となりました。これにともない、教育改革を進めており、今年度のから開始したSD PBLの授業、アクティブ・ラーニングを駆使した学生実験を推進しています。これらにより、理解度や満足度の向上が図られています。また、11月には、文部科学省の知識集約型社会を支える人材事業に応募していた「ゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く「ひらめき・こともの・ひと」づくりプログラム」が採択されました。来年度からは、従来からの教育研究プログラム、このプログラムと共に、124単位の半分を英語で授業する国際インベーター育成オナーズプログラムも開始します。

今後も、学生の成長を促すとともに、学科の魅力向上を目指し、日々、取り組みを強化しています。最後に、2020年度の就職状況も好調です。電気電子通信工学科になっても、引き続き、教職員一同、学生ファーストの視点を忘れず、学生と一緒に前進していきます。(最新情報は、学科のブログ: <http://grp.tcu.ac.jp/eece/> を御覧ください。)



機械システム工学科

主任教授 宮坂 明宏

校友会皆さまの変わらぬ暖かいご支援にこの場を借りて感謝申し上げます。特に昨年度の台風19号による浸水被害、さらに今年度のコロナ禍における大学における限られた活動におきましても校友会の皆さまからの暖かいご支援を賜りましたことを重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

機械システム工学科では、2020年3月に第20期生87名が卒業、機械工学システム専攻修士34名が修了し、4月に学部新入生119名、大学院27名が入学しました。少子化の現状においても機械システム工学科の入学希望者に関しては落ち込むことなく順調な状況と思われます。教員では、ロボティクスライフサポート研究室に所属されていた教授の金宮先生が退職され、強度設計システム研究室の熊谷先生が留学先のマンチェスター大学より3月に元気に帰還されました。

今年度のフレッシュャーズキャンプはコロナウィルスの感染予防のため、残念ではありますが中止となりました。1年生にとっては教室で授業を受けることができず、前期の授業はオンライン授業になっていたため、8月には希望者を募り、大学の教室にてフレッシュャーズミーティングを開催して各研究室紹介等のイベントを実施しました。遠隔授業など本来の大学活動と異なった自粛生活が学生への精神的な負担とならないように今後とも配慮して行く所存でございます。

2020年度からは工学部から理工学部へ変更になりましたが、学科設立時の教育理念を忘れず優秀な人材を世に輩出して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。



医用工学科

主任教授 桐生 昭吾

2020年度は、全国の大学と同様、コロナウィルスの影響で、教育、研究など多くの分野で深刻な影響がでています。医用工学科でも全学の方針に従い、座学については、ほぼ全ての科目で遠隔授業となりました。1年生のフレッシュャーズキャンプも中止となり、オリエンテーションについても遠隔での実施となりました。産業界と同様、大学での教育、働き方が大きく変わった年と言えるでしょう。遠隔での仕事自体は否定するものではありませんが、工学教育では、実際に体験することが重要と考えております。医用工学科では、実験・実習に力を入れており、これらの授業については、可能な限り対面での授業形態を取りました。工学を基本とする以上、可能な限り手を動かし、実際に機械や電気回路がどのように動作するのか?生体の働きや生体信号の検出はどのように検出し理解するのか、ということは実際に対面でなければ実学として身に付かないと考えております。

学科の指導体制としては、昨年度、研究室の再編および名称変更を行い、今年度も同じ体制で学生の研究指導に当たっています。医用工学科は1学年60名程度と、本学では、小さな学科であり教員も9名と少なく、中々、研究時間が取れない状況にあります。各研究室の教員が可能な限り連携を取って学生の教育と研究指導を行っていますし、今後は、さらに連携を強めたいと考えております。

これまで、多くの卒業生が優良企業に就職しており、様々な分野でのご活躍を耳にしております。卒業生の皆様におかれましては、お忙しいと存じますが、お時間のある時にお立ちよりいただければ幸いです。



機械系の実験実習

エネルギー化学科

主任教授 高橋 政志

コロナ禍の中、エネルギー化学科も2019年度末から困難な時期を過ごしています。4月はフレッシュヤーズキャンプが中止となり、卒業研究もなかなかスタートできませんでした。前期授業は5月にオンラインではじまり、後期からはオンラインと対面授業を組み合わせたハイブリッド授業となりましたが、本稿の執筆時点(11月末)では感染の拡大によって再びオンライン中心の授業形態に戻ってしまいました。しかしながら、2・3年生の実験科目は感染予防に配慮しながら希望者に対して対面で実験を実施しており、卒業研究も徐々に進展して実験成果が少しずつ出はじめています。まだ先の状況は見通せませんが、引き続き教育・研究活動の維持と学生の安全確保の両立に努めてまいります。

本学科は2021年度から「応用化学科」へと名称変更します。これは、学科における研究分野の広がりや教育カリキュラムの整備に基づくもので、エネルギーに限定されない幅広い化学が研究対象となります。学科名称は変わりますが、校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



学生実験(応用化学実験発展)の実施風景

原子力研究所 管理室員 羽倉 尚人(2005エネルギー基礎)

オンラインで実施! 放射線業務従事者のための教育

原子力研究所では毎年4月にその年度に放射線を利用した実験・研究を行う都市大の教職員・学生・院生を対象とした法令に基づく教育を行っています。今年度はCOVID-19の影響により、時期をずらして、またオンラインも併用する形で実施となりました。

この教育を受講するのは原子力安全工学科及び原子力研究所に関係する者に限定されると思われるかもしれませんが、実は全学に多数いらっしゃるようです。今年度は約80名の参加がありました。初めてのオンラインでの開催ということで、きちんと配信できるのか不安なところもありましたが、事後のアンケートによるとほぼすべての方が問題なく視聴できたと回答され、運営側として胸を撫で下ろしたところでした。

感染症対策、デジタル化推進、業務改革という中で今後もこうしたスタイルでの教育の実施が求められると思います。いかなる状況においても適切な教育の提供ができる体制を整えていくことが必要だと考えています。(http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/)



オンライン配信の模様

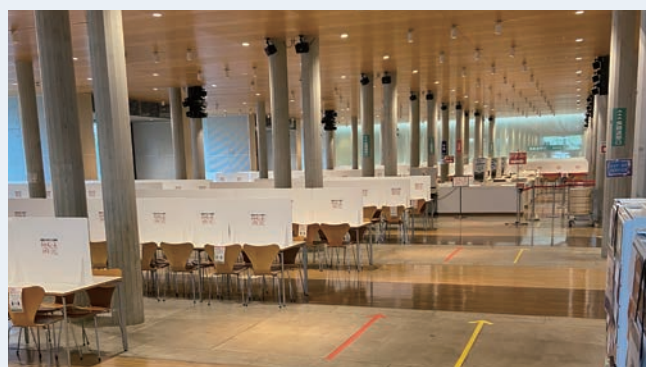
玄関での体温チェック

原子力安全工学科

主任教授 河原林 順

原子力安全工学科では2020年度は50名の新入生を迎えました。ところが、現在も猛威を振っているCOVID-19により恒例のフレッシュヤーズ・キャンプは中止となり、前期は対面授業が行われずオンライン講義となりました。さらに夏季休業中の暑さの中で学生実験を集中開講、後期はハイブリッド型での講義・学生実験の開講と、目まぐるしく大学における教育方法も変わっています。写真は学生食堂でのCOVID-19対策で導入された衝立で、教育方法や環境の変化に教職員一体となって対応している状況です。

総合型選抜の一部として導入された2年目の原子力人材入試ですが、今年度は11名の入学者を迎え、意欲のある学生を迎え入れる体制となっております。また、世田谷キャンパスの建物のリニューアルが本格化し、新B棟がテニスコートのあった場所に建築予定で、基礎工事が始まりました。学科はこの新B棟の5階へ移動予定となっており、少々眺めがよくなるかもしれません。卒業生の方々もご活躍の毎日とは存じますが、世田谷等々力祭やホームカミングデーの機会に、同窓会を兼ねて同期でお集まりいただき御来学いただけると、教員一同うれしく思います。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を続けていきます。



建築学科

主任教授 小見 康夫

2019年、水害で四苦八苦したと思ったら、今年度は新型コロナウィルスが猛威を振るい、その対応に明け暮れた一年だった。入学式は行われず、前期は全て遠隔授業という前代未聞の事態に陥ったが、今もって全く先が見えないというとても辛い状況の中、大学で教えることの意義さえ問い直された一年でもあった。教員も学生も、ZOOMなどの遠隔会議ツールのスキルを身に付け、大抵のことは会わなくてもできそうな気もする一方で、ZOOM飲み会などは一過性のブームで今やすっかり下火になってしまい、リアルに語らうことの重要性を再認識もしている。いずれにせよここ数年は様々なことが「実験」され、意識しようがしまいが、世の中は新しい秩序を受け入れることになるのだろう。「建築都市デザイン学部」はこのような中の波乱の船出となった。

それでも時は待ってはくれない。世田谷キャンパスはT.P.11.0mまでの水位上昇に対して完全に防御できるよう、昨秋までに各建物には止水壁・止水板が廻らされた。4号館(建築学科棟)も然りである(写真1)。一方、「東京都市大学キャンパス再整備事業」の一環として、「新A棟」が2020年6月に着工された。2021年度中の完成を目指して着々と工事が進んでいる。それを追うように新B棟も着工を待っているところである(写真2。執筆時点)。これらのすべてが完成するのは2023年度中とのこと。その頃コロナ禍はどうなっているのだろうか。



(写真1) 4号館まわりの止水壁

(写真2) 工事が進む新A棟(奥)と着工を待つ新B等(手前)

都市工学科

主任教授 末政 直晃

2019年度末から2020年度までの期間における都市工学科の近況を報告いたします。まず、2019年度後半は台風19号による本学の浸水被害により、1か月もの長さに渡り講義できない状況が続きました。ただ、その間に都市工学科はこの浸水被害に関するプロジェクトチームを結成して浸水被害の状況を把握するとともに、被害の原因を解明すべく動き出しました。特に地域の被害調査には、当時3年生の学生たちがPBL授業の一環として浸水深の一斉調査に協力してくれました。彼らが集めたデータは、その後世田谷区や大田区にも提供され、被害シミュレーションのデータとして役立てられました。市民のための工学であるCivil Engineeringの面目躍如となりました。

その後はご承知のように世界はコロナ禍に見舞われました。世田谷キャンパスにとっては立て続けの災難です。ただ、後学期の講義期間も終了していたため、直接の被害は少なく、2020年3月19日には簡易ながらも卒業式が執り行われました。83名の学部生、11名の修士生、9名の社会基盤マネジメントコースの社会人修士生が卒業・修了されました。

2020年度に入って都市工学科の戦力が増強されました。まず、地盤工学や安全工学を専門とする伊藤和也准教授が教授に昇格されました。また、ビッグデータを用いた人や車の交通流を専門とする秋山准教授が着任されました。未だに祝賀会や歓迎会を開くことができないままですが、お二人ともに既に教育や研究に活発に活動されています。

2020年度は、コロナの影響により5月中旬からの講義開始となりましたが、前学期は全て遠隔講義となりました。当初は教員、学生共に慣れない遠隔講義に戸惑う毎日でしたが、今では新しい講義スタイルも定着してきました。

皆川教授が2020年度をもって定年退職されます。これまで皆川教授には主任教授や研究科長として、都市工学科のみならず大学を牽引して頂きました。そして特に今年度は教育担当の副学長として、遠隔講義の導入やコロナ対策の最前線に立たれて、ご尽力されました。長年のご功労に感謝申し上げますとともに今後のご活躍とご健勝を祈念いたします。

なお、紙面の都合上、都市工学科の近況については一部しか取り上げられませんでした。詳しい情報に関しましては、学科ホームページをご覧ください(<http://www.civil.tcu.ac.jp/>)

知能情報工学科

主任教授 森 博彦

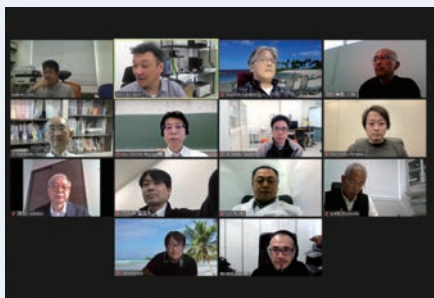
この1年間本学は本当にいろいろなことがありました。ご存知の方も多いと思いますが、2019年、台風19号で世田谷キャンパスは水害の被害を受け、しばらくの間大学に入ることができませんでした。幸い学科内で被災した研究室はありませんが、大学全体ではかなりの損害を受けました。現在はかなり復旧していますが、未だに図書館と3号館の地下は立入禁止となっています。

さらに春からは新型コロナウイルスの流行です。昨年度の卒業式は最小限の時間で運営され、また入学式は全体式典を行わず、入学生がただ学生証を受け取るだけのものとなりました。授業も前期はZoom等を用いたオンライン講義、後期の第3クォーターからはハイブリッド形式(教員は教室で授業を行い、それをオンラインで配信、学生は登学かオンラインかを選択することができる)に移行したものの、再び感染拡大が始まったため第4クォーターから一部実験・演習等を除き、再びオンラインに戻りました。我々もオンラインの講義に合った授業資料を作り直すなど、日々対応に追われています。

しかし、暗い話題ばかりではありません。知能情報工学科に名称を変更してもうすぐ2年、入試は都市大全体が好調の中、知能情報工学科は中でも高いレベルを維持しています。本年度はまだ不透明ですが、推薦などの年内の入試では多くの受験生が集まり、学科は目に見えて活性化しています。

さらに本年度から新たに田中宏和先生を教授としてお迎えすることができました。田中先生のご専門は脳のモデル化とブレインマシンインタフェースです。これまで知能情報工学科だけでなく本学にはなかった分野であり、学科の独自性を強化することができたと喜んでおります。

最後にコロナ禍の中、皆様のご健康で過ごされることを心よりお祈り申し上げます。



情報科学科

主任教授 横山 孝典

情報科学科の近況を報告させていただきます。まず学生の動向ですが、2020年3月に92名の卒業生を送り出しました。新型コロナウイルス対策のため、規模を縮小しての学位授与式となりました。4月には学部名を情報工学部に変更し、97名の新入学生を迎えました。残念ながら入学式を行うことはできず、オンラインで教員、先輩、友人と触れ合う場を設けました。11月1日現在の学科全体の在籍学生数は464名です。

本学は国際化に力を入れています。昨年度より情報工学部には国際コースが設置されました。海外大学との交流も盛んで、本学科は大連交通大学と交換留学生の協定を結び、毎年5名の留学生を迎えています。講義のみでなく、研究室に所属しての研究活動も行っており、帰国前には研究発表会を開催しています。Withコロナ時代、Afterコロナ時代の国際交流のあり方を模索しながら、今後も国際化を推進したいと考えています。

情報工学部情報科学科となった本学科ですが、引き続き超スマート社会を牽引する技術者の育成のため、教育・研究のさらなる向上を目指し努力していく所存でございます。卒業生の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



大連交通大学交換留学生による研究発表会

自然科学科

主任教授 飯島 正徳

2020年度は、コロナウイルスによる世界的なパンデミックの中、自然科学科にとっては理工学部自然科学科としてスタートする記念すべき年になりました。知識工学部で25名定員の学科としてスタートしてから今年度で11年目となります。この間に新6号館の自然科学科研究室の誕生や、定員増などを経て、今年度には定員60名の学科として完成年度を迎えます。同時に総合理工学研究科自然科学専攻も設置され、学部・大学院を通じた一貫教育も可能となります。スタート当初は、学科の教員も慣れない学科運営で、良い意味でハンドメイドな学科でした。今ではその頃の少人数教育が懐かしく思われます。今後は学科として、スタート当初の志を忘れずに教育に取り組んでいきたいと思っております。

学科の近況としては、今年度は12期生61名(男子38名、女子23名)が入学し、26名(男子16名、女子10名)が卒業しました。一昨年度の私立大学定員厳格化や共通テストの導入の影響もあり、学科としては多くの方に受験して頂きました。写真は9月24日に行われた後期の1年生ガイダンスの時のものです。全員マスク着用で感染防止に努めています。

そのほか専任教員は、共通教育部物理部門から長田剛教授、須藤誠一教授、西村太樹准教授、中村正人講師、綿引隆文教育講師、菅谷幹事技士補が移籍し、都合教員19名の大所帯になりました。卒業生の皆様の陰もあり、立派な学科になってきたと思います。

就職関連では本学科卒のリクルーターもちらほらと見掛けるようになりましたが、まだまだ他学科のOBの方々にお世話になっていることが多く、毎年のことですが、この場を借りて厚く御礼申し上げます。自然科学科の卒業生も、本学及び社会に貢献できる日が来ることを願っております。



環境創生学科 主任教授 リジャル ホム・バハドゥル

講義形式がコロナの影響により、前期はオンライン、後期前半はハイブリッド、後期後半はオンラインとなっている。一部の実験と実習系の講義は対面形式で行われている。後期前半までのゼミは講義と同様の形式であるが、後期後半からは3年生ゼミはオンライン、4年生ゼミはオンラインとハイブリッドの形式で行われている。オンライン講義の学習効果を向上させるため、学生達に向けて講義の資料や動画がインターネットで限定公開されている。対面形式のゼミ活動、懇親会、ゼミ合宿などは殆ど行われていない。フレッシュャーズキャンプ、横浜祭は中止となり、対面形式の学生の課外活動も殆ど実施されていない。2021年度はコロナが終息し、学生達がキャンパスで学べる環境に戻ることを願っている。

できるだけ多くの人々に環境学部の方針や研究活動を知ってもらうため、丹羽先生が中心になってデジタル・パンフレットを初めて作成した。その中では主に学科と研究室の内容、教員と学生の研究活動、キャリア形成、卒業生の活動、国際交流などについて分かり易く紹介している。下記のアドレスの中には32ページの冊子のリンクがあり、知り合いの方々にもシェアして頂きたいと思っている。

<https://fes.tcu.ac.jp/news/20201107-2/>

コロナの影響で国内外の多くの学会発表が中止またはオンライン形式に変更となった。現在では多くの学生や教員がオンライン形式で学会発表を行っている。特に、各研究室の12名の博士後期課程の学生が積極的に研究活動を行っており、2021年3月にはリジャル研究室から4名の学生が博士号を取得する予定である。また、リジャルは大学から研究教授に選ばれ、国内外で共同研究を行い、2020年は16編のScopus論文を発表している(写真)。今後、多くの学生が大学院に進学して専門的能力を高め、良い研究を行い、社会に貢献して欲しい。



ネパールの非常に寒い気候(海拔3705 m)における建物と居住者の環境適応に関する論文発表: Energy & Buildings 230 (2021) 110551.

社会メディア学科 主任教授 中村 雅子

社会メディア学科の最近の話

社会メディア学科は、環境問題や国際問題などのグローバルな諸問題から、身近なコミュニケーションまで、幅広い現代社会の課題に対して「社会科学的視点から情報メディアを駆使して解決を図る」ことを目指す学科です。このため「調査分析力(リサーチ力)」「アイデア構築・表現力(デザイン力)」「コミュニケーション力」が身に付く実践的な教育を展開しています。授業外の学習機会でも、「神奈川4大学メディアキャンプ」など、他大学や企業、行政、地域等との協働プロジェクト型の学習機会を多く取り入れています。

今年度はCOVID-19の影響で、本来の学科の特色である学外連携型の事業やワークショップ型の活動の実施が難しく、やむを得ず断念したものもありました。しかし、そのような状況下だからこそ、メディアとコミュニケーションを学ぶ学科としてハイブリッドなコミュニケーションを模索することにも積極的に取り組んでいます。

嬉しい話題として、学科学生の授業サポーターとしての活躍が挙げられます。初めてのオンライン授業にとまどう新入生や教員をボランティアとして支援する学生組織が、横浜キャンパスの先輩学生たちの間から自主的に立ち上がりました。vRSAというこの学生グループは、現在、メンバーを増やして全学に展開しています。2020年9月の全教職員が参加する全学FD・SDフォーラムでは、中核メンバーの一人である本学科学生がこの支援経験を踏まえて、学生代表として、活動報告や授業への提言を発表してくれました。



感染症対策に配慮したフレッシュャーズミーティングの開催



vRSAが立ち上げたウェブページ

環境経営システム学科 主任教授 馬場 健司

「環境経営システム学科」に生まれ変わって2年目となりました。志願者数や実質倍率も堅調な伸びを示し、過去にないほどの高倍率から選りすぐられた69名が入学しました。就職状況は、昨年度も内定率100.0%と極めて好調で、情報サービス業、製造業など多岐にわたる業種へと進んでおります。カリキュラムについても、新しく加わった2名の教員による経営系の科目が増え、環境学部で開始した「グローバル人材育成プログラム」、全学的に開始されたSD-PBL1 (Problem Based Learning) など、国際化、アクティブラーニングもさらに充実しております。コロナ禍で多くの科目がオンライン開講となり、多くのイベントも中止されましたが、夏にはフレッシュャーズミーティングが対面で開催され、オンライングループワークをはじめとする工夫も多くの科目で実践されています。来年度からは定員が90名となります。文系・理系を問わず、環境・経営の問題発見・解決能力を身につけたい人、それを国際的な舞台で活かしたい人にぜひ当学科をお勧め下さい。



図 SD-PBL1でのオンライングループワークの様子

情報システム学科 主任教授 横井 利彰(1981電気)

2020年3月に3期生97名が卒業しました。卒業生の就職先は、情報サービス業・情報通信業が73.4%、製造業13.8%となっています。また4月には、新入生90名(男子69名、女子21名)を迎えました。COVID-19対策として、入学式の代わりに、横浜キャンパスでの短時間ガイダンスとなりました。5月からのオンライン授業では、今年からSDGsを意識した1年生科目「SD PBL(1)」を開講し、大学と学科の歴史を学びながら、持続可能な社会とのつながりを意識した自己成長イメージを育むことを開始しました。8月17日には、感染防止対策を徹底して、新入生を対象に「フレッシュャーズミーティング」を実施し、学科での学びのサポート・不安解消(個人面談等)、登学体験、クラスメイトおよび先輩との交流の機会を設けました。あくまで任意での参加としましたが、当日は70名の参加を得て、実施は順調に進み、学生間やアシスタントの方や先生との話の中での楽しそうな笑いが印象的でした。なお、学科教員の活動の一部をご紹介します。日本印刷学会「論文賞」を、梅原英一先生と知能情報工学科渡部和雄教授他の皆様が受賞しました(2020年2月)。また、大谷紀子先生の研究室とPUFFYのコラボで制作された子守唄「ほうやれほ」が公開されました(2020年7月)。それぞれの記事へのリンクのQRコードを記載させて頂きます。最後に、今年度末に梅原英一先生、八木伸行先生がご退任となりますことを卒業生の皆様にお知らせしておきます。



日本印刷学会「論文賞」受賞



大谷研究室とPUFFYのコラボで制作された子守唄「ほうやれほ」

都市生活学科

都市生活学部長 教授 川口 和英

「国際都市経営コースと都市生活創造コースの設置およびスタート」

都市生活学部は、新しい発想で創る「都市」をテーマに総合的に学ぶ社会科学系の学部として、2009年4月に開設されました。以来、都市生活学部は魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていき、企画・実行業務を担う実践力のある人材を育成することを目的としています。本学の伝統にも支えられ社会においても受け入れられ高い就職率の実績を残しています。開学部より11年がたち8期生まで卒業生がうまれております。



都市生活と都市イノベーションの概念

昨年度は節目となる10周年をむかえることができました。現在はさらに、短期留学と準備教育を組み込んだ本学独自の国際人育成プログラム「TAP（東京都市大学オーストラリアプログラム）」、「TUCP」等、グローバル教育プログラムを実施しています。また国際化への対応として、「国際都市経営コース」(50名)、「都市生活創造コース」110名を、2020年度入学学生よりスタートさせました。(2年後期コース配属)国際化社会に臆せず飛び込み、多様な視点から都市を創る楽しさを知っている「新しい都市生活の創造者」をめざし、人材を育てるべく努力しています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、TAP学生の豪州からの途中帰国、それに続く国内でのECU(エディスコーワン大学)、MU(マードック大学)とのオンライン学修など様々な予想していなかった出来事がおきました。しかしこうした状況に負けず、本学部の学生は、グローバルな教育プログラムによって多文化共生社会に対応する力を身につけ、またフィールドワークや企業との共同研究を通じて社会体験を深め、それぞれが個性を磨いていきたいと考えております。今後さらに都市生活学部が「都市イノベーション」を意識しながら、研究、教育の両輪での成長をめざしています。

新しい社会をつくっていくためのSOCIETY5.0、人工知能AIやBIGDATAを活用した都市の形成、2030年をターゲットとした国際水準を規定するSDGs、また特に交通の世界ラストワンマイルまで検討する移動体系MaaSなど、都市が対応していく必要のあるイノベーションの世界は次々と新しい展開をみせています。こうした新しい都市をめぐる研究分野にも、都市生活の分野として積極的に対応していきたいと考えています。

児童学科

人間科学部長 井戸 ゆかり

2020年度は107名の新生を迎えました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により入学後も登学ができず、しばらくオンラインによる授業が続きました。そのような中で、7月1日に1年生のフレッシュアミーティングを大学で開催することができ、クラスごとにフィジカルディスタンスに留意しながら初めてクラスメートや担任の先生と話す機会を得て、たくさんの笑顔が見られました。第3クォーターはハイブリッド型授業となり希望者は大学で受講できるようになりました。

例年夢キャンパスで実施される公開講座は受講者の方はZOOMによる参加となりました。また、渋谷区との共催で行われた渋谷福祉学会第3回も渋谷区長をはじめ、シンポジスト、卒業生を含む発表者は渋谷のサテライト教室からの配信となり、ZOOMウェビナーによる実施となりました。

今年度は教員にとっても、オンライン授業、ハイブリッド型授業と初めての挑戦が多く、感染リスクに常に注意しながら、より良い授業ができるよう努力をしています。

私事ですぐ3月で学部長任期が満了となり、4月より新しい学部長の下での運営になります。今はコロナ禍でさまざまな制約がありますが、今後も教育、研究、地域貢献と継続して注力してまいります。新体制になりましても、引き続き、校友会の皆様のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



1年生の初めての登学（クラス会の様子：7月）

共通教育部

主任教授 渡辺 一郎

● 人文・社会科学系

主任教授 渡辺 一郎

本学系は、人社教育部門・体育教育部門・教職教育の3部門からなり、各部門それぞれの課題を追求し、さらなる全学教育の発展および社会に貢献できるよう、日々努力を重ねています。

● 人文・社会科学教育部門

教授 新保 良明

2019年の3月から4月にかけて人事が生じました。まず、心理学の千田茂博准教授が定年退職なさいました(なお、現在は非常勤講師として本学の教育に携わっていただいております)。次に、後任として、日本史をご専門とする丸島和洋准教授をお迎えしました。丸島先生はNHK大河ドラマ「真田丸」の時代考証を担当された方です。そして美術史の岡山理香准教授が教授に昇格なさいました。

一方、将来に目を転じると、注視すべきは2年後に都市生活、人間科学の両学部が世田谷キャンパスに移転してくる点です。両学部の学生総数が千名で、卒業要件として教養科目10単位の修得が求められます。即ち、世田谷キャンパス開講の教養科目の科目数増を考えねばならないという局面に立たされています。

● 体育教育部門

教授 渡辺 一郎

現在体育部門は、SC渡辺教授、岩嶋准教授、椿原准教授、山田講師の4名とYC久保教授計5名で教育、研究はもちろんのこと、ハラスメント相談室長や体育会顧問、科学体験教室責任者等の大学運営業務にと忙しい日々を送っております。特に教育面では、今年度はCOVID-19の影響により前期は遠隔授業のみ、後期になり対面授業と遠隔授業同

時に行うハイブリッド形式にて授業を行っており、その対応策に忙殺されております。これに加え今年度より建築都市デザイン学部は完全クォーター制に移行したためそちらの対応もあり、天手古舞というところが実情です。

7コマを2回履修と短くなってしまうため、短い時間の中でいかに教育効果を上げるか知恵を絞っているところです。今以上に体育実技科目では運動量を増やすよう努力し、スポーツ健康論の講義により体力低下が人体に及ぼす影響等運動の大切さを理論的にわかりやすく教授する必要性と、選択科目である応用体育を1人でも多くの学生に修得して頂けるよう、体育教室スタッフ全員で更なる努力をしていく所存です。

● 教職教育部門

教授 井上 健

2020年4月、故中込幸二准教授の後任として、高橋哲男教授が着任しました。高橋先生は大学教員と高校教諭の両方のキャリアがあり、ご専門である「数学教育」はもちろんのこと、学生指導やカリキュラム開発、教育実習校等との連絡調整など、即戦力としての活躍が期待されます。

今年度はコロナ禍の影響で、「介護等体験」や「教育実習」など学外での学習を大幅に縮小せざるを得ませんでした。特に、教職課程のハイライトである4年次の「教育実習(2)」が実習校の判断で取りやめとなった学生が何人かいました。文科省からは、そうした学生を救済するために大学での演習等に代替する案が通知されましたが、私たちがどんなに密度の濃い演習を行ったとしても、実習校で「生徒たちと共に学ぶ経験」に勝るものはありません。残念ではありますが、「草創期の遠隔授業」を受けた経験を糧として、学生たちには「新しい学校のあり方」を切り拓いていってほしいと切に願っています。

共通教育部 自然科学系

主任教授 山口 勝己

2020年度は、8名の専任教職員、18名の非常勤講師という体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。今年度から物理学教育部門の教員が理工学部自然科学系に移籍したため、物理学教育部門と化学・生物・地学教育部門については、自然科学系の教員が担当しています。自然科学系は、数学教育部門と情報教育部門の2部門だけとなりましたが、工学系基礎科目の教育に関しては、従来通り自然科学系の教員と連携して進めてまいります。また、これまでと同様に、大学院工学研究科の共通教育も担当しています。

今年度は、コロナ禍のためにオンライン授業やハイブリッド授業が実施され、慣れない授業形態への対応やオンデマンド用授業収録など非常に大変な状況ですが、昨年度までと同レベルの授業を提供できるよう、非常勤講師の先生方も含め全員で努力しています。

● 自然科学系／数学教育部門

畑上教授、井上准教授、古田准教授、出未准教授、森田教育講師の5名体制に加え、自然科学系の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。

● 自然科学系／情報教育部門

山口教授、安井講師、荒木教育講師の3名体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

総合研究所

所長 野中 謙一郎

東京都市大学総合研究所は、2004年4月に武蔵工業大学総合研究所として等々力キャンパスに設置され、以来、本学の特色ある先端的な研究を推進すると共に、大学院生、学部生に対し、先端的な教育環境を提供して参りました。令和二年度の研究組織は、イノベーション研究機構に研究センターが10、未来都市研究機構に研究ユニットが6、卓越教員研究室が2、インキュベーションラボが1、重点推進研究ユニットが5からなる体制でした。研究分野は、未来都市、ナノエレ、インフラ、エンジン、緑地創生、地盤、子ども・福祉、ロボット、ミネラル結晶、災害制御、太陽電池、マイクロシステムなど多分野に渡ります。本年度はコロナ禍で大きな影響を受けた中で、各研究組織では外部資金を獲得しながら研究を推進するとともに、総研セミナーによる研究紹介や成果報告を行っています。9月には都市大の宇宙分野での研究教育を推進するために「宇宙科学研究センター」を設置しました。10月に本学が東京大学宇宙線研究所と締結した学術連携協定に基づく研究活動を推進します。また11月に大学院生による研究発表コンテストも共催しました。12月に本学の研究活動をリードされてきた前所長の丸泉琢也先生が副学長を退任されました。先生の長年のご貢献に感謝申し上げるとともに、総合研究所は今後も大学全体の研究をリードしていけるよう一層尽力をしていく所存です。



等々力キャンパスの総合研究所と世田谷キャンパス6号館

外国語共通教育センター

主任教授 植野 貴志子

外国語共通教育センターでは、2019年度より開始した全学統一カリキュラム「都市大スタンダード2.0」に基づき、国際共通語である英語の運用能力を養うとともに、国際社会で求められる幅広い教養や英語以外の外国語を学ぶための多様な科目を展開しています。

2020年度は、コロナ禍に対応した外国語教育の方法を模索した1年でした。外国語の授業は、発音や発話の練習、プレゼンテーションやディスカッションを主要な活動とするため、同時双方向のインタラクションをいかに充実したものにすることが問われます。そのため、全面オンライン化が決定した4月、ハイブリッド型授業の導入が決定した9月は、授業方法について専任教員の間で話し合いを重ねたうえで、非常勤講師に対する説明会を実施し、円滑に授業が行えるよう努めました。この過程においては、ITスキルの高い教員が他の教員に助言したり、授業デザインを提案したり、またWebClass課題の作成を主導したりと、重要な役割を果たしました。

遠隔授業には思いがけない効果もありました。対面授業では着席位置等によって学生の参加度に差が生じ、それが固定化する傾向がありますが、遠隔授業では各々の平等な参加が促されます。また対面授業では全学生が満遍なく発言することは困難ですが、Zoomのチャット機能等を利用すれば全員が同時に考えを表明することもできます。教員の工夫によって遠隔授業の利点をさらに引き出していけるものと思います。

コロナ禍が終息し、安心して通常の授業が行える日が来ることを祈りつつ、2021年度は、今年度の経験から得た知識や技能を活かして、より効果的な外国語教育が提供できるよう外国語共通教育センターの体制を強化していきたいと考えています。

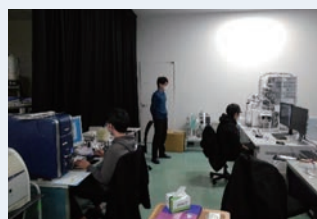
ナノ科学技術学際研究センター

センター長 野平 博司

ナノ科学技術学際研究センターは、2019年9月に総合研究所ナノエレクトロニクス研究センターで保有している機器の一部の共用化を行い、それに伴い組織変更を行って発足しました。2020年度からは、理工学部に加わった自然科学系もメンバーに加わりました。

幸いなことに、主な分析機器が設置されている2号館は、少し高くなっていることで、ギリギリのところまで台風19号による浸水を免れ、一部機器に被害はあったもののセンター全体としては大きな被害は受けず、受けた被害も4月の時点ですべて復旧しました。また、3月に新しい共用機器として陽電子消滅時間計測装置も加わり、4月の時点では本学の研究をフルにサポートできる状態でした。しかし、ご存じのように、2020年度はコロナ禍で本学への入構規制の影響もあり、学内外問わずナノ科学技術学際研究センターの利用が困難となり、その間は試料送付による依頼分析を行うこともありましたが、全体としては利用が大きく減少しました。しかし、現在は「3密」を避けながらも例年通りの利用に戻っております。本来であれば、東海大との連携による機器利用説明会や分析技術講習会、SCAN TECH 2020(日本顕微鏡学会 走査電子顕微鏡分科会)や、初心者のための分析セミナー(表面技術協会)の開催を予定しておりましたが、いずれも中止となりました。

最後になりますが、来年度は状況次第ではありますが、本学の研究活動を支援するために、機器分析セミナーの共同開催やSCAN TECH 2021の開催(2021/9)などを予定しています。



現在の利用風景(12/10)



陽電子消滅時間計測装置を使用している様子

機親会 (機械工学科、生産機械工学科、
機械システム工学科 同窓生の会) 会長 松村 慶一(1974機械)

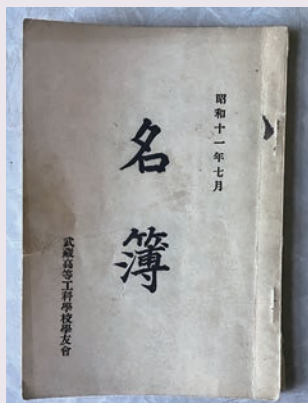
機親会は、2020年3月、機械工学科98名、機械システム工学科87名の卒業生、大学院総合理工学研究科 機械専攻修士課程62名、大学院工学研究科博士後期課程 機械工学専攻2名、機械システム工学専攻1名を迎えることができました。会員総数16,246名で構成されています。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、予定されていた活動の自粛を余儀なくされました。本学も、学内での講義とインターネットを利用したオンライン講義を併用した、いわゆるハイブリッド授業とのことでした。この禍を契機として、世の中もデジタル社会の普及を目指す取組みに舵を切りました。デジタル社会に対応した活動、生活が望まれます。

機親会といえども同様です。卒業生相互の親睦はもとより、研究室との交流連携を指向してきましたが、残念なことにその活動は沈黙してしまいました。改めて時代に対応した、そして逆境に強い機親会を模索します。予てより、機親会ホームページの充実を予定していましたが、再構築と一層の充実を早期に達成します。シームレスな各位との情報(技術の会員相互の情報、大学・研究室の情報、技術の情報)の共有を目指します。機親会各位の相互親睦、情報の共有、大学と卒業各位との新たな連携をこれまでにない仕組みで臨みます。会員各位の関連なご意見、ご支援を期待します。

最後に、2019年10月の台風19号による世田谷キャンパス被害に対し、皆様に義援金をお願いした結果、多くの方々から善意をいただきました。その寄付に対し「御礼」を五島育英会館から受領しましたことを報告します。

大学、機親会の歴史調査を目的に、本学関連の古書の入手作業を進めています。今般、大学発足当時の卒業生名簿を市場より取得しました。



1936年(昭和11年)
武蔵高等工科大学校友会名簿

緑土会 組織管理部会副会長 萩原 秀司(1983土木)

会員の皆様には、校友会ならびに緑土会を中心とした大学支援へのご協力に御礼申し上げます。緑土会の活動は、現役学生を対象とした現場見学会等の課外活動支援や毎年5月に開催する【インターンシップ: 仕事体験の勧め】を予定していましたが、コロナ禍の影響にていずれも開催中止と苦渋の選択をせざるを得ない状況となりました。この場をお借りしお詫びいたします。また、役員会・幹事会についてはメール審議、11月開催予定していましたが総会も開催中止と判断しました。

このような状況下ではありましたが、就職支援活動は、都市工学科主催の企業研究会ならびに会員各社夏季インターンシップを予定通り行いました。

都市工学科主催の企業研究会は、2019年12月11日(水)、18日(水)にて各日2部構成の合計4回を開催、都市大OB・OGの会員各社約70社が参加しました。新6号館61C教室にて1サイクル30分の4回開催で、各社いろいろな工夫を凝らし業界説明や企業業務内容の説明、学生からの質疑応答を行いました。

また、会員各社夏季インターンシップは、夏休み期間中に5日間または10日間の現場見学ならびに仕事体験を行いました。参加学生は現場施工の流れを見学し、また授業で習った基本的測量からより実践的な測量を体験して頂きました。

2021年の活動計画はこれから策定致しますが、現役学生の課外活動支援および就職活動支援をより一層充実する予定です。



インターンシップ(現場見学)



インターンシップ(測量体験)

電友会

会長 石田 弥(1970電気)

2020年度は当初から、新型コロナウイルス感染が増加し、三密を避け新しい生活様式が始まり、感染防止の観点から電友会活動を控えることに致しました。11月ようやく第一回の常任幹事会をリモート(Zoom)開催しました。

●昨年度の主な活動報告

- ①岩尾学科主任教授、中島専攻主任教授と懇談を行い、SDPBLの講師派遣協力及び修士・博士への電友会賞授与の要望があった。
- ②学生支援 該当者なし、鳥山杯中止
- ③電友会長賞授与 学士:木村総一郎君
修士:江頭駿哉君、大迫力人君
博士:該当者なし

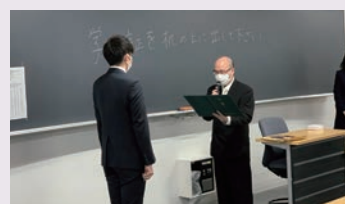
岩尾徹学科主任教授より木村君に(写真上)、中島達人専攻主任教授より大迫君に(写真下)授与。

- ④大電流エネルギー研究室(岩尾教授)発表会に参加
パネル形式で発表され、学生の緊張気味ながら真剣みあふれる説明が印象的であった。

●2020年度の主な活動

- ①幹事会の開催
2021年4月:リモート形式(Zoom)
- ②会員支援(研究室、年度別などの同窓会)
- ③学生支援(会長賞、鳥山杯、技術士・電検三種の受験他)
- ④SDPBLへの講師派遣協力

●連絡先:事務局:denyukai@tcu.ac.jp (担当:鈴木憲史准教授)



如学会

会長 山岡 嘉彌(1971建築)

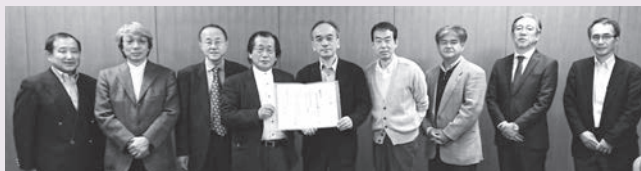
本年度から、建築学科は組織改革により、都市工学科と共に新たに工学部から「建築都市デザイン学部」の学科となりました。都市工学科とのより一体化が図られ、如学会としても、2020年度は「建築都市デザイン学部 創設記念」として、数々のイベントを企画しておりました。しかしながら、コロナ禍により、延期を余儀なくされております。

2019年度の「100人展」も、「大学展」は浸水被害による大学祭の中止に伴い展覧会も中止となり、その後3月に予定していた「浅草展」はコロナウイルスによる中止、2020年度の同展も翌年度に延期となりました。そうした中、「進路ガイダンス」は去る7月22日、10月28日と前・後期に分け、WEBによる新たな試みとして、オンライン(Zoom)「ブレイクアウトルーム」機能を利用し、企業、学生、総数約150名の参加を得て実施しました。

また、建築学科棟の浸水被害に対し、多くの卒業生から義援金が寄せられ、165名から総額2,630,688 円もの浄財が集まり、去年2月19日の「建築学科と如学会の連絡会」の席上で小見主任教授に贈呈させていただきました。大学被災やコロナ禍の状況に対し、卒業生達の多くの心配する声や励ましの言葉が寄せられ、あらためて、母校愛と同窓生同士の絆(ぎずな)を意識させられ、胸が熱くなる思いでした。大学の早期の復活を祈ります。



「建築学科と如学会の連絡会」



建築学科への義援金の贈呈

通友会

会長 矢澤 猛(1972通信)

2019年の校友会会報の原稿を準備していた頃は、まさか今年度のようなコロナ禍になるとは、昨年の水害のように誰も想定できない大変厳しい1年になってしまいました!

新しい社会人として羽ばたいていく記念すべき卒業式には、大変残念ではありますが保護者、来賓の出席をご遠慮いただき、限られた関係者のみの少人数で行われる事となりました。例年行われている通友会賞授与式も通友会からの出席は遠慮させていただき、柴田先生、その他の先生方に準備も含め代行していただきました。写真は2019年度通友会賞を授与された、片岡 竜也君と鄭 博俊君です。2019年度卒業生の皆さん、頑張っていますか?

大きな通友会活動のひとつであります通友会誌FLUXの発行(写真は表紙案)も大分遅れましたが、この校友会会報が届く頃には完成している予定です。その他の通友会の活動も、今年度は必要最低限の連絡を取り合う程度で、ほとんどの活動が出来ない1年間となりつつあります。

学科同窓会だよりだということに、あまり良いお知らせが出来ず残念ですが、コロナ禍が1日も早く鎮静化する事、並びに通友会のみならず校友会会員の皆様のご健康とご活躍を祈願して、通友会だよりとさせていただきます。



2019年度通友会賞受賞者



FLUX44号表紙

医工会

会長 小宮山 和弘(2011生体医)

[2020年度報告]

医工会では新しい生活様式として示された三密(密接・密集・密閉)の回避や飛沫感染の予防対策を図り、休止していたイベント等を7月から段階的に再開しています。

あらためまして本会のみなさまにおかれましては、今後の活動を実施するにあたって感染拡大防止に配慮した取り組みをお願いいたします。このような状況下ではございますが、医工会活動再開の一環として数回にわたりZoomにてオンライン打合せを実施いたしました。会長、副会長をはじめ医工会の会員によるコロナ禍での本会の在り方についての協議がなされました。

これに基づき例年継続して参りましたファミリーイベントはオンライン開催とし、医用工学科の卒業生とその家族を対象にした情報交換会を実施いたしました。Zoom打合せのノウハウを活かして当日は10名弱の参加者が集まりました。今回の企画は好評を得られましたので引き続き新生活様式に則したイベントの開催を予定しております。

[2021年度予定]

このような時世につき開催時期等は未定ですが医工学の再始動に向けて総会を開催いたします。年始に上記のための準備会を企画しております。

さらに、昨今の就職率低下を抑制するための取組みとして新たに同会有志による就職対策を検討しています。具体的には本会に所属する企業の採用責任者を招いて在学生との座談会や説明会を行いたいと考えております。これに関しましては校友会ならびに大学各所のご協力が必要不可欠となります。ご理解とご承認を賜りますようお願い申し上げます。

最後にはなりますが、これまで多人数が集まる会合・行事への参加について、感染リスクを心配する声が寄せられています。参加を希望されない方への配慮や極力最小限の人数で開催するなど、感染拡大防止に引き続き留意しながら運営を行う所存でございます。

経友会

会長 海老沼 利光(1974経営)

対面による会合やイベントが開催できないコロナ禍にあって、オンラインを活用した「役員会、懇親会」を実施しています。オンラインでは、地方で活躍する役員とのコミュニケーションが容易にとれるという利点もあります。コロナ禍が一日も早く収まることを祈りつつ、対面とオンラインのハイブリッドで活動してゆきます。

1) 経友会オンライン役員会の定期開催

役員会を定例的に開催し、事業計画、学生支援策、予算案などを企画立案、審議しています。



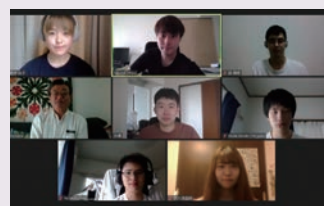
オンライン経友会役員会の様子

2) 学生支援:エビ会の開催

経工会学生に実践体験談や就職支援指導を開始以来、5年が経過しました。今年度は、2年生:6回、3年生7回の「エビ会」を実施しました。

3) 経友会ニュースの発行

経友会活動をお知らせする「経友会ニュース第12号」を発行しました。郵送配布に加え、経友会ホームページへも掲載しています。



オンライン学生指導会「エビ会」の様子

4) 新たな学部がスタートしました

「新しい社会を創造する先進的技術者の育成」を目指した情報工学科「知能情報学科」がスタートしました。AIやビックデータ分析が社会に浸透し、これらの技術を学べる新学部、新学科は、受験生や保護者の心をつかんでいるのではないのでしょうか。卒業生の就職実績が伴った時、さらに人気は高まるでしょう。

経友会は、「知能情報工学科」の発展のために協力・支援していきます。

原子力友の会

羽倉 尚人(2005エネルギー基礎)

退職された先生への感謝と10年の節目、さらなる発展を!

■長年、原子力研究所で勤務されていた岡田往子先生と三橋偉司先生が2020年3月定年退職されました。写真は、コロナによる自粛に入る前の2020年2月に行われた修士論文発表会の後の懇親会の際のものです。岡田先生は武蔵工大炉がフル稼働していた当時をご存知の最後の先生となりました。三橋先生は管理室長、所長を歴任され、国の規制が変わる中、適切な管理が行えるよう施設管理を中心にご対応されました。本会は、原子力安全工学科の同窓会であるとともに原子力研究所の研究室を卒業した卒業生からなる同窓会でもあります。学生も卒業しますが、教職員もいずれは「卒業」します。しかしそこには学び舎が残り続けますので、懐かしい思い出を振り返る場として本会がその役割を果たしていければと思います。

■2011年11月に発足した本会は来年度10年の節目を迎えます。卒業生や退職された教職員、そして現役の学生と教職員が繋がる場としますます発展を遂げていければと思います。

(<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)



さきがけ

副会長 山本 未紗希(2017自然科学)

現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、世界規模で猛威を振るい、これまでに例をみない被害が生じています。国内においても罹患者が急増し、終息の見込みは立っておりません。さきがけにおいても今年度の総会や交流会等は中止を余儀なくされました。しかし、コロナ禍において最も恐れなくてはならないことのひとつは社会性の分断です。さきがけは持続可能な人間関係を構築することが同窓会の役割と考えており、活動を行っております。

Face-to-Faceでの作業が難しい中、加藤広樹会長(2013)主導で、オンライン会議やクラウドサービスを用いた情報共有を駆使し、ウィズコロナ時代の同窓会のあり方を模索して参りました。

例えば、高橋伸行さん(2013)筆頭に会報「先駆け」の発行、山田翔馬副会長(2013)筆頭に2021年度以降の活動方針策定、宮内和輝さん(2016)筆頭にホームカミングデーの企画を行っております。詳細な内容はホームページに記載しております。また2019年度さきがけ賞は、星川将也さん、井上祐貴さん、山本奈都子さんに授与しました。



柏三水会

会長 石田 彌(1970電気)

柏三水会は、今年創立50周年を迎えます。

当会は、1971年5月に林田 実様(1933土木)を初代会長として創立され、本年創立50周年を迎えます。学科を超え、世代を超えた人の集まりで、日頃の活動(セミナー開催、旅行会、定期交流会)を通して、同窓という関係から情報交換や人脈の和が広がるところに本会の大きな特徴があります。

柏三水会は、共に学び、遊び、活動する会員を募集中です。

- ・母校の発展を願うOBであればどなたでも大歓迎です。
- ・お気軽にお問い合わせ下さい。kasiwa-sansuikai@pom.jp

柏三水会の活動の様子は、facebookでご覧いただけます。

facebook 柏三水会

検索

<https://www.facebook.com/kasiwa.sansuikai>



柏三水会 創立45周年記念

平成28年10月15日

新美砂会

副会長 川辺 加代子(1975国文)

昨年初めより日本中がコロナ禍に襲われる中、7月には九州・熊本から東北・山形までの広範囲に渡る洪水被害。皆様のお住いの地域はいかがでしたでしょうか。

昨年度は新美砂会としての活動は行えず、役員会もリモートでの開催となりました。このような状況です。今回は簡単に旧東横学園女子短期大学の成り立ちと建学の精神を書き記すことにいたしました。

故五島慶太翁が女性教育の重要性を鑑み1939年4月に東横女子商業学校の前身、東横商業女学校を開学。これを基盤として1956年5つの建学精神を提唱し東横学園女子短期大学が発足いたしました。

1. 健康で生命力旺盛な女性。
1. 清楚で気品高い風格の女性。
1. 科学的、合理的に判断処理する頭脳を有する女性。
1. 独立して生計を営み得る能力を有する女性。

1. 感情の安定した女性。(簡略抜粋)
このような建学精神のもと2010年3月の閉学まで3万弱名が世に巣立ち、様々にご活躍のことと思います。60年以上前に示されたものですが、現在にも充分通じる先進的な内容であることを実感いたします。皆様はいくつ覚えていらっしゃいますか?最近、地方支部総会の場で東京都市大学に至る過程で旧武蔵工業大学と旧東横学園女子短期大学の沿革を紹介される機会が増えてきました。東京都市大学の建学の精神「公正・自由・自治」とともに大切に記憶しておきたいものですね。2018年5月に建立されました記念碑の写真を掲載いたします。



※都市大校友オンライン登録のお願い:今後、都市大校友オンラインを通じての連絡が増えると思います。是非、校友会にメールアドレスの登録をお願いいたします。

校友会館自由が丘クラブ

オンライン環境を整備し、

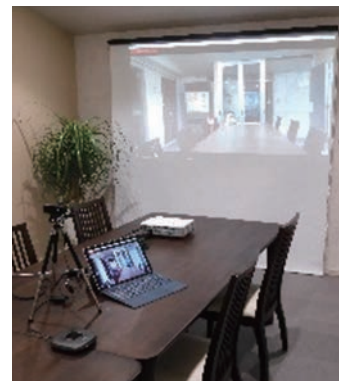
ハイブリッド型web会議、web講習会、webセミナーなど様々なスタイルでのご利用が可能となりました。

■web設備

- ・広角Webカメラ
- ・web会議用マイクスピーカ
- ・Ethernetケーブルネット回線
- ・web会議用大型モニタ
- ・プロジェクター
- ・Wi-Fi利用可

■web会議ソフト

- ・zoom ミーティング
- ・zoom ウェビナ
- その他
- ・ワイヤレスピンマイクシステム
- ・充電USBコネクタ



当クラブ利用の様子は、facebookでもご覧いただけます。



facebook 自由が丘クラブ

検索

<https://www.facebook.com/jiyugaoka.club/>



当クラブ利用のご利用予約、お問い合わせ方法は、HPをご覧ください。



東京都市大学自由が丘クラブ

検索

<https://jiyugaoka.club/>



東京都市大学 世田谷キャンパスの 復旧状況と義援金の活用について

東京都市大学 副学長
関 良明

校友会の皆様には、日頃から母校東京都市大学に対し、ひとかたならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。さて、本学世田谷キャンパスにおける令和元年の台風19号による被災状況は誠に甚大でありましたが、校友会を通じまして、1,200名以上もの校友の皆様方から700万円を超える義援金を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

被災からの復旧と止水対策工事等には、大学の年度予算計画にない多額の経費が別途必要となりました中で、校友の皆様方からのご厚意のおかげをもちまして、その経費として充当させていただくことといたしました。

ここに改めて、ご厚意に対しまして感謝申し上げますとともに、世田谷キャンパスの復旧状況と今後の対策についてご報告申し上げます。

復旧状況

誌面の都合によりまして、本誌では、台風19号による本学の被災状況についての詳しい記述は割愛させていただきますが、大学ホームページの検索画面で、「TCU Quarterly -都市大だより-No.214」、または「水害」で検索いただきますと、前者は同誌記事、後者は「大学ジャーナルvol.137」の掲載記事『東京都市大学の浸水被害と復旧』がそれぞれご覧いただけます。当初の詳しい状況につきましては、ご一読をいただければと存じます。

本学世田谷キャンパスでは、複数の建物・施設設備、また国際学生寮と多摩川河川敷グラウンドが、浸水被害を受けました。被災翌日の令和元年10月13日からは、初期対応とともに被災箇所の復旧計画を組み立て、14日より復旧作業が本格的に始まり、教職員の協働による復旧作業を進め、継続してまいりました。

また、浸水被害を回避するための機能向上として、止水対策工事である止水壁の設置、止水板の納品が令和2年10月末に完了しました。さらに、4棟の地下階にある電気設備の上層階への移設工事が、令和2年12月末に完了予定です。最終的には、図書館地下階の復旧工事と河川敷グラウンドの整備をもって、令和3年3月末頃を目途に終了となる見込みです。

学術的な取組

大学では、今回の経験を活かし、末政主任教授以下、建築都市デザイン学部都市工学科全教員で、“都市工学”の視点から災害の原因究明と今後の対策について考えることを目的にしたプロジェクトを立ち上げました。目的は、台風19号による玉堤・田園調布地区の内水氾濫による被害状況を詳細に調査し、収集した客観的な事実からその発生原因を明らかにし、(同地区の氾濫に対する)効果的な対策を実施する上での資料とするとともに、有効な被害低減方法を提案することとしております。

さらに、関連して、同学部建築学科天野教授は、「台風19号による避難・被災状況等に関するアンケート調査」を周辺地域居住世帯対象に実施しており、現在その結果は中間報告書としてまとめ、ご協力いただいた地域住民の皆様には報告するとともに、大学ホームページ(「地域の方へのトピックス」)でも紹介しています。今後も、地域防災拠点への一助となるように大学としてのさらなる地域貢献を目指してまいります。

今後は、校友の皆様方へのお力添えにお応えできるよう、さらなる大学の発展に教職員一同尽力して参りたいと存じます。引き続きご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

2020年度 就職動向と支援

学生支援部部長
住田 暁弘

新型コロナウイルスの影響と就職環境の変化

2020年3月卒業・修了生の就職状況

新型コロナウイルスの影響を受ける前に多くの学生の就職活動は終了していたこともあり、最終的な就職(内定)率は全学で99%と、昨年度に引き続き堅調な実績を残すことができました。入社式がオンラインであったり、多少日程が遅れたりする企業もあったようですが、幸い、ニュース報道であったような内定取消の報告もなく、無事社会へ飛び立っていくことができたようです。

2021年3月卒業・修了生の就職環境

ここ数年の就職環境は、学生側が有利である「売り手市場」と言われておりましたが、新型コロナウイルスの影響で企業側が有利となる「買い手市場」へと様変わりしつつあります。大卒の求人倍率を例にとりますと、2020年3月卒対象では1.83倍でしたが、2020年6月の段階では1.53倍に下がりました(リクルートワークス研究所調べ)。2008年のリーマンショック後の大きな落ち込み(2012年の1.23倍)には至っておりませんが、今後は企業規模に関わらず採用環境は厳しくなる見通しです。

また、新型コロナウイルスの影響は企業の採用手法にも及びました。4月の緊急事態宣言を受けて、企業はスケジュールを変更するだけではなく、採用・選考の方法をインターネットによる「オンライン説明会」や「オンライン面接」に切替えて実施するなど、多くの企業が従来の対面形式からオンラインによる情報提供や選考に大きく舵を切りました。一方で、オンライン化に対応できない、もしくは対面での選考に強くこだわった企業は採用選考の一時休止を選択したり、業績の悪化により採用計画自体を見直さなければならぬところもありました。このような環境は学生に活動スケジュールの急な変更やオンライン選考への対応、希望業界や企業の見直しなど、例年にはない大きなストレスを与えました。

そのような状況をいち早く受け止め、キャリア支援センターとしては、従来提供していたキャリアガイダンス、進路ガイダンス、各種講座などさまざまなキャリア支援プログラムを速やかにオンライン化しました。また、対面で行ってきたキャリアカウンセラーとの面談は、予約システム、面談システムを新たに構築した上で、従来と変わらぬきめ細かい就職相談を4月から各キャンパスともオンラインで行っています(状況により対面とオンラインを併用)。

文部科学省発表の2020年12月時点での国公立大学の平均内定率は「82.2%」となりました。本学では12月時点で学部生は86.5%、大学院生では89.5%の内定率となっております。全国平均に比べて十分健闘をしておりますが、本学としましては、まだ活動を継続している学生に対しての支援は最優先と認識しております。これからも学

内でのオンライン企業セミナーや継続して採用活動を行っている企業の情報を収集し一層の就職活動の支援を実施してまいります。これからの時期、「モチベーションの維持」「活動を続ける姿勢」が重要なポイントとなります。

来年度の2022年3月卒業生の採用選考時期も今年度と同様となりますが、採用選考の多様化や国内外の経済、政治の変動による環境の変化の可能性は高まっています。学生が変化に戸惑い、不利益を被らないように本学としても十分に対策をしていきます。校友会の皆様からも学生への直接的、また情報提供などの間接的なご支援も一層賜りますようお願いいたします。

近年の主な就職先

最近3か年の主な就職先を以下に示しました。より詳細な資料は大学ホームページ(HOME>就職・キャリア>就職実績>年度別主要就職先一覧)をご覧ください。

民間企業	3か年 合計	2020年 3月卒	2019年 3月卒	2018年 3月卒
大成建設	29	12	5	12
キャノン	29	9	12	8
東日本旅客鉄道(JR東日本)	28	9	11	8
本田技研工業(Honda)	27	8	10	9
日本電気(NEC)	25	10	7	8
東海旅客鉄道(JR東海)	25	6	8	11
東京電力ホールディングス	21	7	9	5
日立製作所	18	7	3	8
スズキ	18	4	9	5
東急	18	4	6	8
富士通	18	3	6	9
凸版印刷	16	2	5	9
大和ハウス工業	15	6	7	2
三菱電機	15	1	6	8
SUBARU	14	4	6	4
日産自動車	12	3	4	5
鹿島建設	12	2	4	6
NTTデータ	11	4	4	3
清水建設	11	3	5	3
東急建設	11	3	3	5
いすゞ自動車	10	4	3	3
大林組	10	1	4	5
オリンパス	10	0	4	6
トヨタ自動車	6	1	3	2
積水ハウス	5	1	1	3
竹中工務店	4	1	1	2

公務員	3か年 合計	2020年 3月卒	2019年 3月卒	2018年 3月卒
横浜市役所	26	10	5	11
東京都庁	11	3	4	4
防衛省(自衛隊・総合職等含む)	9	2	7	0
世田谷区役所	7	3	2	2
川崎市役所	5	1	1	3
警察庁東京都警察情報通信部	2	1	1	0

「定期総会資料説明会」リモートで開催

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大で校友会定期総会は、中止となりましたが、メール登録者へ総会資料を配信するとともに、開催を予定していました5月16日(土)にzoomウェビナーにより、リモートでの総会資料説明会を行い、正会員100名以上が視聴者として参加いただきました。

説明会は、先ず原口会長から、2019年度の台風による世田谷キャンパスの被害、新型コロナウイルス禍による大学の影響とそれらに対する校友会からの支援についての説明並びに会員の皆様のご協力に対し謝辞が述べられました。引き続き、川辺総務委員長から、2019年度の事業報告及び2020年度の事業計画の説明があり、2020年度については、この状況にあってできる範囲での活動となるとの説明及び今年度から始めた校友会リサイクル募金への協力のお願いがあった。

続いて、新規計画の「若手会員活動推進プロジェクトの設置」の推進リーダー加藤幹事(学科同窓会さきがけ会長)から、プロジェクトの説明があった。

その後松村支部委員長から支部の活動報告と今年度の計画、金子企画委員長から、親睦行事の実施報告と今年度の計画、丹羽学生支援委員長から、進路相談会の実施報告と今年度の計画、新型コロナウイルス禍に対する在学生支援(遠隔授業に対応するパソコンを大学が貸与するための購入・設定変更費用2,000万円及び1,000万円の枠での緊急奨学金)についてそれぞれ説明がありました。

最後に中澤財務委員長から、2019年度収支決算に関する決算書、貸借対照表及び監査役監査報告書、また、2020年度収支予算書についてそれぞれ説明があり、松村副会長の閉会の辞で締めくくりました。今回は、何分にも初めての試みで、その場での質疑応答形式は行いませんでした。今後の状況によっては、リモートによる開催を行うことになり、今回はそのための足掛かりになりましたので、より良い形にして参ります。

なお、上記のうち、「2019年度事業報告」、「2019年度収支決算」については、総会承認事項(会則第17条第1項第2号)になっており、5月18日(月)までに「非承認」のご連絡を校友会事務局で受け、「非承認」のご連絡のない方は、「承認」とさせていただきます旨、メール登録者並びに校友会ホームページへ告知しましたが、期限までに、「非承認」のご連絡は全くありませんでしたので、2件については、総会承認となりました。



2019年度事業報告

A. 組織運営

- ①総会を5月18日(土)に実施し、常任幹事会10回、各委員会・部会・WGを44回実施した。なお、3月に予定していた幹事会、常任幹事会、各委員会等の集会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、全て中止の措置をとった。
- ②「校友会のあり方検討会」を9月14日(土)に「学科再編の動きの中で、今後の校友会組織編成のあり方、活動の進め方」をテーマとして実施した。ここでの意見を具体化するため検討を進めている。
- ③校友会行事、会議、地方支部総会、学科同窓会総会等年間日程一覧を校友会ホームページに掲載した。
- ④維持会費を継続して受け付けた。また、台風19号により世田谷キャンパスが被災した以後は、義援金に切り替え、支部総会、各イベントで募金活動を行った。

B. 広報活動

- ①都市大校友オンラインを使用して各種イベントの案内を行っている。また、会員相互の活用を広げるべく検討を行っている。
- ②講演会・セミナー・親睦行事等イベントの周知について、上記オンライン、ホームページ等により広報を行っている。
- ③各種イベントの周知、地方支部及び学科同窓会の活動についてホームページを利用して、掲載アシストも行った。
- ④会報「都市」第7号を作成(卒業生へ送付。新卒業生及び教職員へも配布。学生向けサイトに掲載)。また、ホームページでの会報掲載についてデジタルブック化を進めた。

C. 在学生・母校への支援

1. 大学との連携事業
大学との連携事業について、必要に応じ大学との協議の場を設け、検討実施している。
2. 在学生への支援活動
①11月27日(水)及び12月4日(水)に進路相談会を実施した。参加企業104社、参加学生331名(前年度より増加)
②2019年度の夏期海外インターンシップ派遣学生57名のうち、22名が卒業生紹介企業において実施した。
③学科同窓会が実施している学科研究会との連携事業を支援した。また、総会の懇親会、賀詞交歓会等に学生団体連合会及び学科研究会の代表者を招待し交流を図っている。
3. 大学事業への支援
①大学の「博士号取得奨励奨学金」(2019年度より実施)へ500万円を助成した。(各学科3年次末の成績が2位までの学生で博士後期課程までの修学を希望する者を対象に修士課程在籍期間の最長2年間、月額5万円の給付制度)
②「緊急奨学金」の貸与は、申請者なし
③台風19号により世田谷キャンパスが被災したため、義援金として1,000万円を大学寄付した。また、会員に義援金の募金呼びかけを行い、校友会としてまとめている。

D. 学科同窓会及び支部活動支援・連携

1. 学科同窓会の活動支援
学科同窓会へ以下の費用を助成した。
(1)一律支援 → (9学科) 各150,000円 (5学科) 各100,000円
(2)会報発行支援 → 4学科
(3)大学の名を高める事業支援 → 2学科
(4)特別支援 → 1学科
(5)学科研究会との連携事業支援 → 8学科
(6)現役世代交流支援 → 1学科
(7)就職活動支援事業 → 4学科
(8)特別講義支援 → 5学科
(9)学会論文発表支援 → 1学科(旧武蔵工業会と旧美砂会の地方支部統合推進及び強化費用)
(10)資格取得支援 → 1学科
2. 体育会系、文化系クラブOB/OG会との連携
クラブ同窓会がOB、OG団体会を行う場合の案内状宛名ラベルの作成支援を行っている。
3. 地方支部活動の支援・連携
①地方支部へ以下の費用を助成した。
(1)支部総会助成(総会実施支部) → 43支部
(2)親睦行事助成 → 各種親睦行事開催支部 → 34支
(3)役員会開催助成(一律支援) → 43支部
②地方支部間の相互親睦推進として他支部からの参加者についての会費の一部を開催支部に対して総会助成金に含めて支援した。(21支部)
③現役学生の就職活動支援について、本部から各支部総会出席の際に依頼した。
④母校受験者への大学紹介について、本部から各支部総会出席の際に依頼した。

4. 職場支部活動の支援・連携

- ①各支部総会懇親会に積極的に参加(会長、支部委員長、職場支部部会長等)し、職場支部とのコミュニケーションを図った。また、職場支部を通して校友会進路相談会の参加を依頼したするなど連携を進めた。
- ②職場支部発足を検討している職場へは立ち上げのサポートを行っている。
- ③各職場支部総会で海外インターンシップの説明及び受け入れ依頼を行った。

5. 海外支部の立ち上げ推進

- 海外支部の立ち上げについて数か所打診しており、そのうち、米国支部について設置が具体化し、2020年度に立ち上げ総会を計画している。

E. 会員交流

1. 校友会イベント
①総会当日、卒業生による海外インターンシップ体験報告会及び総会懇親会も実施した。また、賀詞交歓会を1月21日(火)に実施した。
②親睦行事・相互交流会・セミナー等を以下のとおり開催した。
・第7回校友会ゴルフ大会を11月14日(木)にファイブハンドレッドクラブで29名の参加により実施した。
・茨城支部と連携して「茨城県の歴史と海の幸を満喫するバスツアー」を12月7日(土)に実施、33名(うち茨城支部5名)が参加した。
・第4回夢キャンパスセミナーを1月25日(土)に、ソーラーカー柏会チームのリーダーを講師として実施した。(受講者36名)
③総会時に、校友会の運営に貢献された方を対象に功労者表彰を行った(表彰者7名)

2. 母校行事への参画と連携

- ①横浜キャンパス及び等々力キャンパスのホームカミングデーを催した。
なお、世田谷キャンパスは台風19号により被災したため中止となった。
- ②横浜祭のパンフレット広告掲載料として支援した。等々力祭は実施したが、世田谷祭は被災により中止となったため、合同パンフレット製作なし。
- ③学位授与式に以下を行った。
<校友会賞授与> 学業優秀で、将来社会での活躍が期待される者を対象に各学科又は専攻毎に各1名、計18名に対して校友会賞を授与。
<学位記ホルダー贈呈> 2019年度卒業生全員に学位記ホルダーを贈呈。
<ガーデンパーティ> 新規卒業生歓迎行事として大学と共催で学位授与式後にガーデンパーティを例年実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2019年度は中止となった。

3. 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画

- ①「自由が丘クラブ」との協業による事業運営の実施
会館利用の無料化等の実施により、利用者が増加している。
- ②取締役及び監査役担当業務の遂行
校友会常任幹事・幹事が取締役として役員会に参画している。

以上

2020年度事業計画

A. 組織運営

- ①総会・幹事会・常任幹事会・各委員会・付置部会の実施(継続)
- ②若手会員活動推進プロジェクトの設置
- ③校友会のあり方検討会」を会長諮問機関として実施(継続)
- ④年間実施スケジュール」の提示・情報共有(継続)
- ⑤「維持会費」募金(継続)

B. 広報活動

- ①「都市大校友オンライン」の活用・拡充
- ②「講演会・セミナー・親睦行事等」の広報活動の推進
- ③「校友会ホームページ」の活用・普及促進
- ④校友会会報「都市」第8号の発行、会報のデジタル化(アーカイブを含む)の実施

C. 在学生・母校への支援

1. 「東京都市大学被災に対する義援金」募金(継続)
2. 大学との連携事業
連携事業の検討・立案・実施
3. 在学生への支援活動
①就職活動支援:「進路相談会」の実施
②海外インターンシップ派遣先企業の紹介/提示
③「学科研究会」及び「学生団体連合会」との連携・支援
4. 大学事業等への支援
①博士課程進学希望者への支援
②学部生を対象とする校友会奨学金の給費
③「緊急奨学金」の貸与(継続)
④その他の支援

D. 学科同窓会及び支部等活動支援・連携

1. 学科同窓会の活動支援
2. 体育会系、文化系クラブOB/OG会との連携
3. 地方支部活動の支援・連携
①地方支部活性化支援(活動助成金の給付)
②地方支部間の相互親睦推進
③就職活動支援依頼、(地元企業と保護者との関係強化)
④受験生への母校紹介依頼
4. 職場支部活動の支援・連携
①職場支部との連携促進
②職場支部発足支援
③海外インターンシップ派遣先企業の紹介/提示
5. 海外支部の立ち上げ推進

E. 会員交流

1. 校友会イベント
①講演会・懇親会・賀詞交歓会等の開催
②親睦行事・相互交流会・セミナー等の企画・開催(地方支部との合同開催含む)
③「校友会功労者表彰」の継続実施
2. 母校行事への参画と連携
①世田谷・横浜・等々力キャンパス「ホームカミングデー」の共催
②世田谷・横浜・等々力キャンパス開催「学園祭」支援
③学位授与式:「校友会賞」の授与、ガーデンパーティの共催
3. 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画
①「自由が丘クラブ」との協業による事業運営の実施
② 取締役及び監査役担当業務の遂行

以上

2019年度 収支決算書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:円)			
科 目	予算額	決算額	増減
【事業活動収入】			
会費収入	76,000,000	73,036,690	△ 2,963,310
・ 幹事会費収入	68,450,000	64,590,000	△ 3,860,000
・ 定例会費収入	550,000	285,000	△ 265,000
定期総会懇親会会費収入	300,000	188,000	△ 112,000
賀詞交歓会会費収入	150,000	99,000	△ 51,000
その他収入	100,000	0	△ 100,000
・ 維持会費収入	7,000,000	3,785,500	△ 3,214,500
・ 雑収入	0	4,376,190	△ 4,376,190
その他収入	1,950,000	2,163,489	△ 213,489
・ 税金	150,000	166,000	△ 16,000
・ 寄付	0	189,250	△ 189,250
・ 配当金立替他	1,800,000	1,808,229	△ 8,229
貸付金返戻収入	554,000	553,000	△ 10,000
事業活動収入計	78,514,000	75,752,179	△ 2,761,821

(単位:円)			
科 目	予算額	決算額	増減
【事業活動支出】			
事業費支出	48,120,000	43,965,263	△ 4,154,737
・ 正会員向事業費支出	31,800,000	31,068,313	△ 731,687
・ 幹事会費支出	1,000,000	1,153,312	△ 153,312
・ 会報関連費支出	6,100,000	6,140,418	△ 40,418
・ 学科同窓会・支部支援費支出	19,300,000	18,540,046	△ 759,954
・ キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
・ 賀詞交歓会費支出	500,000	501,424	△ 1,424
・ 親睦行事費支出	400,000	233,113	△ 166,887
・ 会報発行費支出	2,500,000	2,500,000	0
・ 学生支援事業費支出	13,800,000	10,554,489	△ 3,245,511
・ 在学生支援費支出	10,750,000	9,048,969	△ 1,701,031
・ 卒業支援費支出	2,270,000	1,505,520	△ 764,480
・ 大学事業支援事業費支出	3,300,000	2,342,461	△ 957,539
・ ホームカミングデー費支出	3,300,000	2,342,461	△ 957,539
管理費支出	25,250,000	19,568,011	△ 5,681,989
・ 人件費支出	11,400,000	11,870,438	△ 70,438
・ 事務関連費支出	4,200,000	3,672,732	△ 527,268
・ 会議費支出	3,300,000	2,043,689	△ 1,256,311
・ ICTコミュニケーション運営費支出	1,250,000	386,446	△ 863,554
・ 雑費支出	1,700,000	1,594,706	△ 105,294
・ 手摺費	3,000,000	0	△ 3,000,000
・ 周年創立金支出	5,000,000	0	△ 5,000,000
・ 償却支援費支出	0	10,000,000	△ 10,000,000
・ 償却支援費支出(雑費金収入相消額)	0	4,376,190	△ 4,376,190
事業活動支出計	73,370,000	82,509,454	△ 9,139,454

当期収支差額	144,000	△ 7,187,285	△ 7,331,285
前期繰越収支差額	184,556,904	184,556,904	
当期繰越収支差額	184,700,904	177,369,619	△ 7,331,285

監査報告書

監査報告書

会報第14巻第2号の表に添付する、2019年度「監査」(2019.4.1～2020.3.31)に
対する監査について、監査を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

監

監査結果について

1. 2019年度の事業活動は、「2019年度事業計画」に記述の通り、
適正かつ円滑に進められたことが認められる。

2. 2019年度の財務状況は、「2019年度収支決算書」に記述の通り、
適正に整理されていることが認められる。

以上

2020年4月14日

東京都市大学 校友会
監査人 小林 南彦
監査人 永谷 昌幸

2019年度 貸借対照表 (2020年3月31日)

(単位:円)		(単位:円)	
科 目	金額	科 目	金額
I資産の部		正負債の部	
流動資産		流動負債	
・ 現金預金	146,064,929	・ 預り金	229,120
・ 未収入金	31,940,000	・ 未払金	4,376,190
・ 短期貸付金	446,000	・ 流動負債合計	4,605,310
流動資産合計	182,446,929	負債合計	4,605,310
固定資産		固定負債の部	
・ 投資有価証券	156,657,436	・ 正債	334,691,653
・ 関連会社株式	15,070,000	・ 正債合計	334,691,653
・ 長期貸付金	11,470,000		
・ 貸倒引当金	△ 550,000		
・ 周年積立金	36,000,000		
固定資産合計	206,647,436		
資産合計	389,094,365	負債及び正味財産合計	339,296,963

2020年度 収支予算書 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:円)			
科 目	2020年度予算A	2019年度決算B	A-B
【事業活動収入】			
会費収入	73,850,000	73,036,690	813,310
・ 幹事会費収入	65,300,000	64,590,000	710,000
・ 定例会費収入	550,000	285,000	265,000
定期総会懇親会会費収入	300,000	188,000	112,000
賀詞交歓会会費収入	150,000	99,000	51,000
その他収入	100,000	0	100,000
・ 維持会費収入	6,000,000	3,785,500	2,214,500
・ 雑収入	0	4,376,190	△ 4,376,190
その他収入	2,050,000	2,163,489	△ 113,489
・ 税金	150,000	166,000	△ 16,000
・ 寄付	100,000	189,250	△ 89,250
・ 配当金立替他	1,800,000	1,808,229	△ 8,229
貸付金返戻収入	444,000	553,000	△ 109,000
事業活動収入計	76,344,000	75,752,179	591,821

(単位:円)			
科 目	2020年度予算A	2019年度決算B	A-B
【事業活動支出】			
事業費支出	50,500,000	43,965,263	6,534,737
・ 正会員向事業費支出	32,900,000	31,068,313	1,831,687
・ 幹事会費支出	1,300,000	1,153,312	146,688
・ 会報関連費支出	6,200,000	6,140,418	59,582
・ 学科同窓会・支部支援費支出	20,000,000	18,540,046	1,459,954
・ キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
・ 賀詞交歓会費支出	500,000	501,424	△ 1,424
・ 親睦行事費支出	400,000	233,113	166,887
・ 会報発行費支出	2,500,000	2,500,000	0
・ 学生支援事業費支出	13,800,000	10,554,489	3,245,511
・ 在学生支援費支出	11,400,000	9,048,969	2,351,031
・ 卒業支援費支出	2,400,000	1,505,520	894,480
・ 大学事業支援事業費支出	3,300,000	2,342,461	1,057,539
・ ホームカミングデー費支出	3,300,000	2,342,461	957,539
管理費支出	21,750,000	19,568,011	2,181,989
・ 人件費支出	11,800,000	11,870,438	△ 70,438
・ 事務関連費支出	4,600,000	3,672,732	927,268
・ 会議費支出	2,800,000	2,043,689	756,311
・ ICTコミュニケーション運営費支出	450,000	386,446	63,554
・ 雑費支出	1,700,000	1,594,706	105,294
・ 手摺費	1,000,000	0	1,000,000
・ 周年創立金支出	1,000,000	0	1,000,000
・ 償却支援費支出	0	10,000,000	△ 10,000,000
・ 償却支援費支出(雑費金収入相消額)	0	4,376,190	△ 4,376,190
事業活動支出計	76,290,000	82,509,454	△ 6,259,454

当期収支差額	84,000	△ 7,187,285	7,271,285
前期繰越収支差額	177,369,619	184,556,904	
当期繰越収支差額	177,453,619	177,369,619	84,000

校友会活動充実のための維持会費納入のお願い

校友会では、今後の活動を維持し、更に充実したものとしていくため、維持会費の納入をお願い致します。

なお、2020年2月1日～2021年1月31日までに維持会を納入いただきました方のご芳名一覧を

校友会報「都市」第8号（2021年3月発行）の発送時に同封しております。

【維持会費金額】 1口2,000円（1口以上何口でも結構です。）*税制上の控除はございません。

【納入期間】 いつでも受け付けます。

【納入方法】 ①会報同封の払込取扱票により、ゆうちょ銀行より振込……振込手数料は、無料です

②各銀行窓口・ATM・ネットバンキングより以下の口座に振込……振込手数料は、ご負担ください。

【振込み先】

ゆうちょ銀行 店名:〇一九(ゼロイチキウ)

預金種目:当座 口座番号: 0451231 口座名称: 東京都市大学校友会

*振込の際、会員番号(会報発送封筒記載)又は卒業年・学科をご記入ください。

お問い合わせ先: 東京都市大学校友会 事務局 tel: 03-3703-3862 mail: koyukai@tcu.ac.jp

東京都市大学の水害に対する義援金についてのご報告及びお礼

2019年10月の台風19号による世田谷キャンパスの水害に対する復旧支援のため、卒業生の皆様からの義援金をお預かりし、名簿を添え寄付として大学(法人)へお渡し致しました。ご協力いただき誠に有難うございました。

【義援金総額】 7,048,190円

【納入者数】 1,190名 (団体含む:1団体1名でカウント)

【募金期間】 2019年11月2日 ~ 2020年7月31日

*募金と別に2019年12月に復旧支援として、1,000万円を校友会から大学へ寄付しております。

義援金をいただいた方のご芳名一覧(2020年2月1日～2020年7月31日)につきましては、

校友会報「都市」第8号(2021年3月発行)発送時に同封しております。

なお、2020年11月2日～2020年1月31日の期間に義援金いただいた方の一覧は、前号の校友会報「都市」第7号(2020年3月発行)発送時に同封致しました。

「校友会進路相談会・オンライン」を開催

例年実施している「校友会進路相談会」は、コロナに禍の状況にあって対面式は断念し、オンラインにより11月25日(水)及び12月2日(水)の両日実施しました。当日は、全体説明会で、原口校友会長、丹羽学生支援委員長からの挨拶、白木実行委員長からの実施要領説明があった後、企業毎の説明会を30分単位で4回、企業別質問タイム(1時間)を設定し、学生が自由に出入りしました。

参加企業は、延べ=136社(11/25:71社、12/2:65)、参加企業実数=92社(前年度104社)、参加学生数(登録数)は、366名(前年度延べ参加数:331名)でした。オンラインでの実施は、初めての試みで、改善の余地はありましたが、学生側、企業側とも概ね参加して良かったとの感想が寄せられました。

校友会の会議をリモートで実施

2020年度は、コロナ禍で、集合しての会議は、実施できませんでしたが、総会資料説明会を5月16日(土)にリモートで行い、遠隔会議実施の可能性を確認できましたので、6月以降、常任幹事会、総務委員会、支部委員会、財務委員会、会報編集部会等をリモートで行っております。

また、全国ブロック長会議、各地域ブロック会もリモートで行い、各地方支部でのリモート活用を推奨しております。

表紙解説

解説 勝又 英明
(1980建築)

第8号の表紙は、現在建設中のA棟(仮称)を6号館4階の屋上より撮影(2021年1月25日)したものです。A棟の鉄骨が上がりつつあります。A棟の敷地は、6,7,15,16号館の跡地で、A棟には現在の等々力キャンパス2学部(都市生活学部、人間科学部)の教育研究施設を中心とした建物となる予定です。

2021年度内竣工予定ですので、2022年4月には世田谷キャンパスは現在の3学部(理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部)と2学部(都市生活学部、人間科学部)で5学部体制となり、賑やかなキャンパスとなる予定です。その際にはコロナ禍が収束していて欲しいです。

現場の遠望には図書館と14号館サクラセンター、右側には3号館が見えます。世田谷キャンパスの再開発が着々と進みつつあります。

編集後記

江藤 和安 (1971 経営)

校友会誌「都市」8号の発行は、コロナ禍での従前の例を参考にできない極めてまれな編集となりました。

コロナ禍で、学内は対面授業が出来ずに初めてのWeb授業で学内から学生の姿が消えた異常な状況でした。全国支部の活動もご多分に漏れず制限されていて、その活動報告が難しい状況にあります。そこで、今号では支部内で全国の卒業生たちにぜひ知ってほしい著名人を紹介していただきました。

実に様々な卒業生が各地でご活躍されていらっしゃることを知ることが出来ました。中ではWeb対応した支部総会や講演会を成功させた支部もあり、この局面での支部活動の方向性を示唆したのではないかと思います。

また、Web授業の展開について、取り組みの詳細を掲載いたしましたのも、この局面ならではの事です。

さらには、世田谷キャンパスの台風による水害被害からの復旧状況と、卒業生からのご支援で集まった義援金の活用にも触れていただきました。

一方では、新任学部長の就任や世田谷キャンパス再編整備が進むなど、新たな方向性が打ち出されており、その詳細報告も掲載されています。

コロナ禍で全ての面で新たな対応がもたらされており、校友会としての活動もどうあるべきなのか、改めて問われております。その過渡期にあたり、皆様に満足のいく内容であったのか、忸怩たる思いでいっぱいです。

最後になりましたが、執筆していただきました皆様、編集にご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

CONTENTS

会報編集委員会

会長：藤井 研一(1982建築)

編集長：江藤 和安(1971経営)

委員：服部 圭子(1975家政)

委員：加藤 祐子(1978国文)

委員：勝又 英明(1980建築)

委員：衣斐喜美子(1980家政)

委員：和多田雅哉(1984電気)

委員：羽倉 尚人(2005エネルギー基礎)

委員：相澤 直人(大学事務局)

2021年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.08

発行人 原口 兼正

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区 玉堤1-28-1

東京都市大学1号館4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

制作 有限会社ライト社

印刷 大日本印刷株式会社

1-2	巻頭言
	1.東京都市大学 校友会 会長 原口 兼正
	副会長 吉村 正伸
	2.東京都市大学 学長 三木 千壽
3-5	活躍する卒業生
6	ホームカミングデー・オンライン2020
7-11	支部だより
11-12	職場支部だより
13	2020年度の教育研究活動
14	Web授業の展開 新型コロナ禍での本学の取り組み
15	新学部長挨拶
16-21	学科だより
22-24	学科同窓会だより
25	世田谷キャンパスの復旧状況と義援金の活用
26	2020年度 就職動向と支援
27-28	2020年度 定期総会
29	校友会からのお知らせならびにご報告
30	表紙解説・編集後記

2021年度 校友会定期総会について

開催日：2021年5月15日（土）

*コロナ禍の状況によっては、WEBで行います。

詳細は、校友会ホームページへの掲載及び都市大校友オンラインによりメール配信でお知らせ致します。

2021年度 ホームカミングデーについて

横浜C=2021年6月5日（土）、等々力C=2021年11月6日（土）、世田谷C=2021年11月7日（日）

*コロナ禍の状況によっては、WEBで行います。

詳細は、校友会ホームページへの掲載及び都市大校友オンラインによりメール配信でお知らせ致します。

東京都市大学校友会リサイクル募金について

皆様から読み終えた本、DVD等をご提供いただき、その査定金額が東京都市大学校友会に寄付される取り込みです。
寄付金は、在学生支援事業に役立てられます。ご協力よろしくお願い致します。

梱包前にできるものとできないものをご確認下さい。

1. 梱包・申込



宅配業者が伝票をもって
引き取りに伺います。

2. 査定・換金



きしゃぽんからも1件につき
100円が寄付されます。

3. 寄付



お名前を添えて寄付します。

☐ WEBでのお申し込み（24時間） 東京都市大学校友会リサイクル募金 kishapon.com/tcu-alumni/

☐ 電話でのお申し込み（9:00～18:00） ☎0120-29-7000 オペレーターに **208** とお伝えください。

（運営協賛）リサイクル募金きしゃぽん／嵯峨野株式会社

「都市大校友オンライン」のご案内

東京都市大学と東京都市大学校友会では、会員への情報提供に関わるサービス向上を図るため、
「都市大校友オンライン」(<http://tcu-alumni.jp/new/tcu-online/>)の運用を行っております。

■「都市大校友オンライン」によるweb版会員名簿では、開示されている情報の検索・閲覧ができます。

■web版会員名簿の会員情報開示の可否は会員自身で設定できます。

■「都市大校友オンライン」にログイン・登録された方には、校友会イベント等のメール案内を行っております。



「都市大校友オンライン」にログイン・登録をお願いします

「都市大校友オンライン」は、校友会イベントのご案内配信等様々な場面で利用され、導入の成果を上げています。

しかし、残念ながらログイン・登録された方は、全会員の16%に留まっています。より多くの方に登録していただくことが
「都市大校友オンライン」の利用価値の向上に繋がります。

